

第1章 中長期計画の短期計画（平成21年度～22年度）実績について

第1節 中長期計画委員会

中長期計画では、その進捗状況を確認するため委員会を設け毎年度検証し、3年おきに利用者家族アンケート等も行い計画の達成度や新たな課題の発掘に努め計画に反映させることと記されています。今回、短期事業年度（H21～22年度）の実績を検証するため中長期委員会において前回同様のアンケートや聞き取り調査等を実施しました。

また、計画策定後に事業を開始した特別養護老人ホームあけはま荘、明浜デイサービスセンター、ケアハウスはまゆう及び、ななほし中川は平成24年度から平成30年度の中長期計画を策定しました。策定の基礎となるご利用者家族アンケートや本人聞き取り調査については前回と同様の手法によりました。

中長期委員会は平成23年5月23日の準備会を経て6月21日の第1回委員会において13人の委員全員が出席し、委員会の設置要項を決定し委員長 清水利三郎、副委員長 末光麗子を選任しました。検証の報告書(案)は平成24年2月20日開催の第9回委員会で決定しました。

アンケートは平成23年8月10日付で依頼書（参考1）を添えて、各施設ごとに無作為に抽出した30人(3施設は30人以上に依頼)にお願いしました。記入者は無記名とし法人本部への郵送により回収しました。なお、利用者数が30人に満たない施設においては全員に依頼し、法人全体での依頼総数624(前回483)、回収率72.1%（前回72.0%）でした。

第 2 節 短期計画の検証

(1) 法人本部

「施設の基本理念や基本方針をご存知ですか」の家族アンケート項目について、「あまり知らない」「全く知らない」と回答された方が平成 20 年の調査と比較して、障害者施設 54.1%、乳幼児施設 34.1%、特別養護老人ホーム△24.3%、デイ・ショート・あんしんの家△0.3%の削減率にとどまっております。施設ごとのばらつきはあるが法人全体として十分な改善には至っていません。今後 24 年度からの法人ホームページの立ち上げや、年 2 回発行の広報“ふくしの里”を活用して、認知度の向上に努めます。アンケートの最後の項目、「施設を総合的に評価するとどの程度満足していますか」の問いでは「満足」「どちらかという満足」と応えた方は、障害者施設 85.7%(前回 88.9%)、乳幼児施設 97.4%(前回 96.0%)、特別養護老人ホーム 88.9%(前回 87.8% 松葉寮、皆楽園)、デイ・ショート・あんしんの家 95.7%(前回 91.6%)でした。

良質な福祉人材を確保するために、職員の処遇改善として 21 年度には正職員給料表 1 号俸の特別昇給と、臨時職員日給 50 円、パート職員時給 10 円のベースアップを実施し、21 年 12 月からは処遇改善交付金により介護職員、支援員に月額 9,000 円の特別手当を支給しています。また、23 年度からは臨時職員の通勤手当を一律 5 km 以上 4,100 円から通勤距離に応じて上限 11,700 円とし、正職員と同様の支給へ改正しました。

適切な労務管理により快適な職場環境を実現するために、社会保険労務士と業務委託契約を交わし就業規則の見直しを行いました。

良質かつ安全・安心な福祉サービスを提供するために、リスクマネジメント体制の構築に取り組んでいます。社会保険労務士法人のコンサルティングにより、施設長補佐を中心にプロジェクトを編成し、リスクの洗い出し、現状把握により、法人として統一した各種ルールを決定し、マニュアルや手順書等の見直しを行います。

サービスの担い手である職員の質の向上を推進するために、継続的、体系的な教育・研修プログラムの策定にも取り組んでいます。人材育成コンサルタントにより、職場研修のイベント化から実質的なものへ、与えられるものから参画するものへと転換を図り、人を育てる職場環境への仕組みづくりを行っています。

事業規模が拡大化するなかで、法人運営がより実効性のあるものとなるために、組織体制の改革に取り組んでいます。老人部門、障害部門、保育部門の 3 事業部制とし、それぞれ事業部長を選任し管理単位を分担することにより、法人組織内部でのチェック機能の強化を図ります。また、法人本部に専任の教育・研修担当職員を配置し、研修を一元的に推進する体制を整備します。

(2) 障害者施設

最大の課題であった障害者自立支援法新体系への移行は22年度末に準備が完了し、両施設とも23年度当初から新たな障害者支援施設としてスタートをきりました。

松葉学園は生活介護、施設入所支援、短期入所、就労移行支援事業、グループホーム・ケアホーム夢の家の定員増も図りました。又、児童に対するタイムケア事業は、平成24年度以降に新たに障害児支援事業として放課後等デイサービス事業となる予定です。既に新体系に移行していた「いっとき館」は就労継続支援事業所として継続していきます。

一方希望の森は生活介護、施設入所支援、短期入所事業と相談支援事業所も併設しながら、ケアホーム夢の家の利用者のバックアップにも当たることとなります。

今後の障害者福祉制度の動向については、平成25年8月を予定とした障害者総合福祉法（仮称）の制定も言われていますが、まだ不透明な部分も多くあります。しかし、障害者の地域生活と在宅者支援の重要性は今後も変わることなく一層の支援が必要となるでしょう。

又、障害者支援の拠点となる施設は今後、加齢化・重度化が急速に進む中、利用者の安心・安全を図るため、人材の育成・確保とともに、施設・設備の充実が求められます。より自由で豊かな生活を目指しグループホーム・ケアホームを拡充した結果、両施設における利用者の居室は、おおむね個室化され、プライバシーの確保が図られました。

希望の森で設置されていなかったスプリンクラーを23年度に整備し、両施設における生活は一層の安心・安全が図られることとなりました。

(3) 乳幼児施設

人口の減少、少子化の波を受け平成23年度に下宇和保育園と田之筋保育園が定員を45名から40名に変更しました。また、多様な保育ニーズに応える為、延長保育2ヶ所、一時預かり保育1ヶ所、病後児保育1ヶ所、学童保育2ヶ所を展開し子育て支援を行ってきました。

人材育成として、初級カウンセラー資格を8名が取得しましたが、今後も引き続き研修会への参加や、資格取得に向けて取り組み保育士の資質の向上を目指していきます。

平成23年7月、明間保育園のお泊り保育において溺水事故があり、被害者園児及びご家族に対し、心からお詫び申し上げます。また、関係各位に対し、ご迷惑やご心配をおかけし、大変申し訳なく思います。

保育現場での園児の遊びや生活におけるリスクについて改めて考え、安全確保が最優先の課題であることを再確認し、マニュアル作りやリスク管理に努め、再発防止と信頼回復に向

けて努力してまいります。

東日本大震災の発生は、決して他人事ではなく、今後 30 年以内に 60%～50%の確率で起こるといわれている東南海・南海地震に対しての危機感を持ちました。子ども達を守る為の災害時の体制や備蓄等の具体的な取り組みを行ってまいります。

次世代育成支援として「子ども子育て新システム」の検討が進められ、平成 25 年度を目途に施行されようとしております。社会の急激な変化に対応するため、

- ①全ての子どもの育ちを社会全体で支える
- ②働き方を改革し、子育てと仕事の調和を図る
- ③子どもの健やかな成長を保証する

ことを議論の大前提とすることを目的として検討されています。現段階では不透明な部分が多く、恒久財源の確保、国・地方及び事業主の負担の在り方、利用者負担の在り方等課題が山積しています。

保育園は、児童福祉施設としてその機能を果たしてきました。「保育」とは、養護と教育が一体となったもので、乳幼児期の教育を行ってきておりますが、学校教育法に位置付けられた義務教育の基礎を培うという意味での教育の保障は幼稚園にしか適用されていません。

今後さらなる少子化に伴い、保育園統廃合や民営化、「総合こども園」への移行等が中期以降の大きな課題になってくると思われます。子ども達の最善の利益を守るために、最低基準の改善や、保育の質の向上を図るよう努めていくことが私たちの使命であると考えます。今後の制度の動向を見守りながら、子ども達にとっての幸せを考え、保護者の方に信頼して頂き、地域に根ざした保育を展開してまいります。

(4) 高齢者施設

短期事業年度（H20～21 年度）に計画された特別養護老人ホームあけはま荘をはじめ隣接するケアハウスはまゆうや特別養護老人ホーム松葉寮・ケアハウスれんげの施設及び経営は西予市から移譲されました。また、あんしんの家の移転新築も終え、ショートステイの定員増など地域のニーズに対応できる施設環境が整いました。

中期計画のあんしんの家新設事業（ななほし中川）は平成 22 年度に完成させることが出来、高齢者施設経営上の施設整備計画は順調に推移しています。

家族アンケートの結果から前回のマイナス評価は特養で 23.9%、ショート・デイ・あんしんの家では 42.3%削減しました。目標は 70%削減であり道半ばと言えます。目標をクリアした項目がある半面、新たな課題も見受けられます。この結果を更に分析し協議を重ね「老人に生きがいを」への努力を重ねます。

平成 24 年度からの介護報酬改定は地域包括ケアシステムを掲げ、施設ではなく地域の在宅サービス事業への誘導を推進する改定結果となりました。

介護報酬の改定率がプラス 1.2%と報道されました。在宅サービスがプラス 1%、施設サービスはプラス 0.2%とのことです。平成 24 年度から 2%の介護職員処遇改善交付金がなくなることとを考慮すれば事業所の収入は在宅系、施設系それぞれマイナス 1%、マイナス 1.8%となります。更に地域区分の見直しによる地域加算で都市部のプラス分を地方のマイナスで賄うこととなり、基本報酬は軒並み減額改定となります。

本会が経営する通所介護事業においてはサービス提供時間の区分見直しに加え、加算の変更などにより介護保険収入はマイナス 10%程度、従来型多床室特養はマイナス 3%、ユニット型個室特養やショートステイはマイナス 1%～3%程度と大変厳しい改定となりましたが、サービス内容の充実を図り、適切に加算のとれるケアや職員を配置すること等によりご利用者の満足、職員の満足を推進する経営に努めます。

中長期計画の短期計画目標として、災害対策としては水・食糧備蓄 3 日分を推進中であり、老人ホーム 3 施設ではほぼ達成していますが、東日本大震災の惨状を目の当たりにし、地震・津波や原子力発電所の事故に対する備えや避難等の計画変更や見直しをいたします。

第2章

第1節 理念・法人目標・数値計画

○基本理念

- 一 老人に生きがいを
- 一 障害者には希望を
- 一 乳幼児には大きな夢を

多様化されていく社会の要請に応じ、福祉サービスの拠点として、総合的、多角的な施設作りを展開し、子ども、老人、障害者そして地域社会と「共に生き、共に歩み、共に育つ」ことをモットーに、心豊かな地域社会作りをめざします。

○基本方針

経営理念を支える3つの力「顧客の満足」「職員の満足」「経営の満足」の向上に取り組み、実現していきます。

- (1) 変化する福祉制度を捉え、利用者のニーズを把握し、地域に必要な福祉サービスを展開します。
- (2) 業務改善、経営の効率化、計画的な見通しのある施設整備をし、健全経営を保ちます。
- (3) 福祉活動の財産は人であるとの考えに基づき、利用者中心の福祉実践、専門性の高い職員集団作り、職員の処遇整備を行い、人材育成を行います。
- (4) 地域社会に必要とされ、地域に支えられる法人として、地域社会に貢献できる施設作りをしていきます。

1 数値計画

(1) 地域に必要な福祉サービスの展開

項目		短期計画 H21～22 年度	中期計画 H23～25 年度	長期計画 H26～30 年度
施設事業強化	障害者施設	就労継続支援事業開始	障害者自立支援法に基づく体系移行	
	実績	完了	H23 体系移行	
	障害者施設	新グループホーム・ケアホーム建設	新グループホーム・ケアホーム事業開始	
	実績	完了	H23 事業開始	
	乳幼児施設	学童保育の実施	公立保育園移譲経営 2～4ヶ所	法人内保育施設整備計画
	実績	完了		
	高齢者施設	特養、デイサービス あけはま荘・ケアハウスはまゆう・特養松葉寮・ケアハウスれんげ施設移譲経営	あんしんの家1 グループホームうつのみやさ んの家移転廃止検討 游の里デイサービス事業内容 検討 ケアハウス特定施設事業開始	あんしんの家1 明浜地区施設整備 計画
	実績	移譲経営開始		
	実績	あんしんの家移転		
	実績	完了		
その他		游の里温泉事業内容検討		
新規事業取組	高齢者住宅 事業への参入			定員 10 名程度

(2) 業務改善、経営の効率化、施設整備

項目		短期計画 H21～22 年度	中期計画 H23～25 年度	長期計画 H26～30 年度
施設経営強化	職員給与・福利厚生	研修・被服助成の見直し	臨時・パート交通費見直し 給与・休暇の見直し	給与・休暇の見直し
	実績	継続実施		
	実績		H22 年度実施	
	各種契約の見直し	電気省力化設備設置 電気保守点検見直し	電気省力化設備設置 給食業務外部委託	給食業務外部委託
実績	完了			

項目		短期計画 H21～22 年度	中期計画 H23～25 年度	長期計画 H26～30 年度	
施設経営強化	障害者施設	実績	生ゴミ処理機 1 完了	軽自動車 1 パソコン 4 テレビ 6 エアコン 2 箇所 居室改修	軽自動車 1 ホロ付トラック 2 ワゴン車 4 普通乗用車 1 作業トラック 1 トラクター1 エアコン 20 箇所 パソコン 6 給湯用ボイラー
		実績	スプリンクラー設置 H23 年度完了		
		実績	駐車場整備 完了		
		実績	作業場・車庫整備 完了		
		実績	食堂椅子・テーブル購入 完了		
		実績	元自活訓練棟改装 計画延期		
		実績	長期計画軽自動車 1 台 寄付金購入		
		実績	長期計画パソコン 2 台 購入		
		乳幼児施設	実績		
	実績		パソコン 2 完了		
	実績		プリンター1 2 台購入		
	実績		乳児室ロッカー1 完了		
	実績		人工芝 2 園完了		
	実績		ペランダひさし取付 完了		
	実績		下駄箱 完了		
	実績		フェンス更新、エアコン設置 完了		
	実績		中期 耐震診断 1 施設実施		
	実績		中期 総合遊具 1 更新		
	実績		中期 砂場テント更新		
	実績		中期 ペランダ塗装実施		
	高齢者施設	実績	ワゴン車 1 中期計画 1 完了	ワゴン車 2 軽自動車 2 エアコン 65 火災報知器センサー35 専用リビング・厨房整備 特殊浴槽 1 個室浴設置 ユニットバス完備 4 部屋 浴槽、洗い場の拡張 1 箇所 冷凍冷蔵庫 スチームオーブン ナースコール	ワゴン車 2 マイクロバス 1 軽自動車 4 エアコン 65 娯楽室段差解消 特殊浴槽 4 入浴リフト 2 ボイラー4 濾過装置 空調設備 ナースコール
		実績	リフト車 1 補助申請不採択		
		実績	緊急避難用扉設置 完了		
		実績	火災報知器センサー10 4 か所更新		
		実績	専用リビング整備 完了		
		実績	健康器具整備 中期計画に延期		
		実績	ボイラー1 更新		
		実績	ナースコール 計画見直し		

(3) 生活の質を高める施設運営

①人材確保計画

短期計画実績

計画作成時には中途退職者数を考慮しない数値で正職員採用計画を作成しています。

平成21年度に11人、22年度に5人の中途退職者があったため、その減少分を考慮し修正しました。H30年度の正職員比率には変更はありません。

〈西予総合福祉会職員採用計画：H24年3月修正〉

年度	正職員数	正職員採用数	嘱託職員	臨時職員	パート職員	総数	新規事業	退職職員数					正職員比率%
								正職員数	嘱託職員	臨時職員	パート職員	計	
20	171	10	15	119	113	418		10	-	19	18	47	40.9%
21	212	51	13	154	141	520		20	1	14	33	68	40.8%
22	216	24	17	159	145	537		14	1	20	20	55	40.2%
23	225	23	16	160	162	563		7	-	11	18	36	40.0%
24	238	20	18	151	158	565		6	-	1	10	17	42.1%
25	252	20	18	157	148	575	※1 ※2	14	1	2	6	23	43.8%
26	268	30	17	162	148	595	※3	11	1	1	1	14	45.0%
27	288	31	19	165	153	625	※4	5	-	1	4	10	46.1%
28	295	12	19	162	151	627		8	-	4	2	14	47.1%
29	296	9	19	162	152	629		5	1	1	2	9	47.1%
30	303	12	18	159	150	630		6	-	4	2	12	48.1%
		242						106	5	78	116	305	

(実績:20年度～22年度 計画:23年度以降)

※1 平成25年度 グループホームうつのみやさんの家定員増

- ※2 平成 25 年度 ケアハウスはまゆう特定施設移行
- ※3 平成 26 年度 児童養護施設受託
- ※4 平成 27 年度 養護老人ホーム受託
- 平成 25 年～29 年度 保育所 2 園増
- 平成 25 年度から 退職者の継続雇用制度(臨時職員)

② 人材育成

対人援助、介護、保育等社会福祉の現場に必要とされる技術や知識のレベルは年々高まってきており、必要とされる資格要件も示されることが多くなってきました。資格取得や研修の啓発を行い、質の高いサービスを実践できる人材育成に取り組みます。

施設種別	資格取得・研修等	短期計画 H21～22 年 度	中期計画 H23～25 年 度	長期計画 H26～30 年 度
障害者施設	社会福祉士	2人	6人	
	実績	1人		
	介護福祉士	2人	4人	
	実績	1人		
	サービス管理責任者研修	6人	4人	
	実績	8人		
乳幼児施設	初級カウンセラー	2人	12人	12人
	実績	8人		
	中級カウンセラー			1人
	実績	1人		
	福祉施設長専門研修		6人	3人
	実績	1人		
高齢者施設	新規：QC入門講座研修	0人		
	実績	2人		
	介護福祉士	14人	37人	24人
	実績	19人		
	介護支援専門員	4人	3人	
	実績	1人		
	社会福祉士		4人	
	実績	1		
	管理栄養士		2人	
	障害福祉サービス管理責任者研修		1人	
	ユニットリーダー研修	2人	2人	
	実績	5人		
認知症介護実践者研修	1人	3人		
実績	3人			
認知症対応型サービス事業管理者研修		2人		

短期計画実績

資格取得を奨励する為の資格取得にかかる旅費、宿泊費等の補助制度や取得者に対する手当制度の導入などを進めた結果、以下の実績を上げることが出来ました。介護支援専門員の資格取得者が予定数に達していませんが、中期計画において推進いたします。

<資格取得等計画>

- 平成 24 年度までに高齢者施設常勤介護職員の 60%を介護福祉士とします。

H22 年度末 44.3% (77 人/174 人) あと 28 人の資格取得が必要です。

③ 施設に対する評価改善

平成 22 年度までに、今回の家族アンケート調査での「どちらかという不満」「不満」の合計割合を 70%削減します。ただし問 1 の回答例は、「あまり知らない」「全く知らない」の合計を 70%削減を目標としました。

障害者施設、マイナス評価表

前回マイナス評価 8.3%以上の項目	今回=A	前回=B	削減率
問 1 施設の基本理念や基本方針について			
あなたは施設の基本理念や基本方針をご存知ですか	10.2%	22.2%	54.1%
問 2 入所した時の状況について			
施設に関する情報提供については	0.0%	8.3%	100%
施設の理念や方針に関する説明には	0.0%	8.3%	100%
サービスの内容に関する説明については	2.0%	13.9%	85.6%
費用や契約に関する説明には	2.0%	8.3%	75.9%
家族から本人に利用の理由を説明するうえでの支援には	2.0%	8.3%	75.9%
問 3 支援の計画について			
支援計画に関する説明には	2.0%	13.9%	85.6%
支援計画を検討・作成する際の。本人や家族からの意向・要望等の聞き取りに関しては	4.1%	11.1%	63.1%
地域生活への移行のための学習や体験の機会については	8.2%	8.3%	1.2%
問 4 日常のサービス内容について			
ご本人が病気やけがの時の対応については	2.0%	8.3%	75.9%
ご本人の意思を十分にくみとっているかどうかについて	4.1%	8.3%	50.6%
問 6 施設と家族との連携・交流について			
施設の理念や方針に関する情報提供については	0.0%	8.3%	100.0%
問 7 職員の対応について			
不満や要望を聞く体制については(気楽に言うことが出来るかなど)	6.1%	0.0%	不能
不満や要望への対応については	8.2%	8.3%	1.2%
職員のサービス提供方法の統一性については(どの職員も同じレベルのサービスを提供してくれるかなど)	10.2%	16.7%	38.9%
削減率=1-(A/B)			64.9%

乳幼児施設、マイナス評価表

前回マイナス評価 11.2%以上の項目	今回=A	前回=B	削減率
問 1 施設の基本理念や基本方針について			
あなたはこの園の保育目標・保育方針をご存知ですか?	24.7%	37.5%	34.1%
問 2 入園するとき			
園の目標や方針の説明については	8.6%	14.5%	40.7%

保育園での1日の生活の過ごし方についての説明には	4.7%	12.5%	62.4%
問4 日常の保育内容について			
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	13.3%	14.4%	7.6%
問5 施設の快適さや安全対策について			
施設設備については	12.0%	23.0%	47.8%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか	6.7%	13.1%	48.9%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	20.0%	29.0%	31.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	9.4%	21.7%	56.7%
問6 園と保護者との連携・交流について			
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	10.0%	16.5%	39.4%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制について	10.0%	11.2%	10.7%
削減率=1-(A/B)			37.9%

特別養護老人ホーム マイナス評価表（松葉寮、皆楽園合計）

前回マイナス評価 7.3%以上の項目	今回=A	前回=B	削減率
問1 施設の基本理念や基本方針について			
あなたは施設の基本理念や基本方針をご存知ですか	33.3%	26.8%	△24.3%
問2 入所する時			
施設に関する情報の得やすさについては	2.2%	7.3%	69.9%
具体的なサービスの内容や費用に関する説明については	0.0%	12.2%	100.0%
問3 ご本人へのサービス提供に関すること			
個別ケア計画へのご本人やご家族の意向・要望の反映については	4.4%	7.3%	39.7%
問4 日常のサービス内容について			
自由時間の活動については（ご本人の希望に添った活動など）	13.3%	7.3%	△82.2%
リハビリや機能回復のための取組については	6.7%	17.0%	60.6%
じょくそう予防や寝たきり防止のための取組みについては	4.4%	7.3%	39.7%
ご本人の体調への日常的な配慮については	4.4%	7.3%	39.7%
問6 施設と家族との連携・交流について			
ご本人の様子に関する説明や情報提供については	6.6%	9.8%	32.7%
問7 職員の対応について			
職員のサービス提供方法の統一性については（どの職員も同じレベルのサービスを提供してくれるかなど）	13.3%	9.7%	△37.1%
削減率=1-(A/B)			23.9%

デイサービス、ショート、あんしんの家マイナス評価表

前回マイナス評価 7.3%以上の項目	今回=A	前回=B	削減率
問1 施設の基本理念や基本方針について			
あなたは施設の基本理念や基本方針をご存知ですか	35.5%	35.4%	△0.3%
問2 入所する時			
施設に関する情報の得やすさについては	7.2%	11.5%	37.4%
問3 ご本人へのサービス提供に関すること			
個別ケア計画へのご本人やご家族の意向・要望の反映については	3.6%	12.5%	71.2%
問4 日常のサービス内容については			
リハビリや機能回復のための取組については	10.1%	16.7%	39.5%

問5 施設の快適さや安全対策について			
施設の構造や設備の安全性については	2.2%	7.3%	69.9%
問6 施設と家族との連携・交流について			
ご本人の様子に関する説明や情報提供については	4.3%	9.4%	54.3%
問7 職員の対応について			
職員のサービス提供方法の統一性については（どの職員も同じレベルのサービスを提供してくれるかなど）	8.7%	11.5%	
	削減率=1-(A/B)		42.3%

④ 子育てと仕事の両立

法人内のより働きやすい職場環境作りをめざし、職員に対する子育て支援サービスの創設を検討していきます。具体的には、法人内で働く職員のための施設内託児所・学童保育の研究に取り組み、施設内託児所・学童保育の運営を長期計画として取り入れていきます。

(4) 財務計画

計画：内部留保金額・・・単年度 1 億 2 千万円

短期計画実績

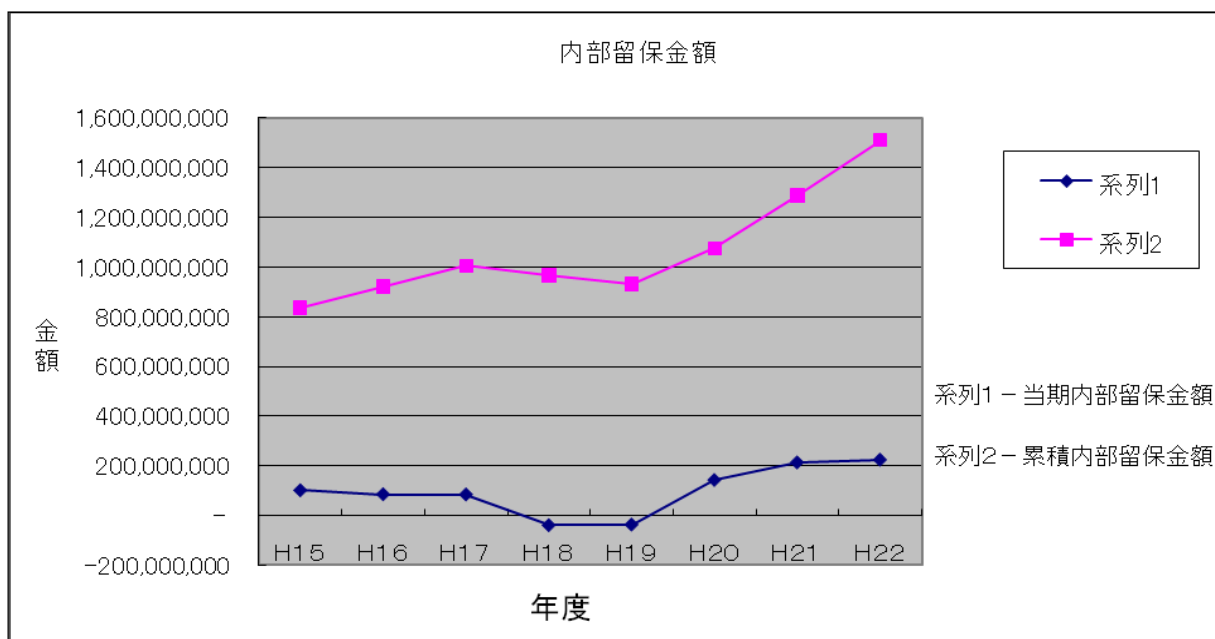
平成 20 年度決算後、短期計画年度での内部留保金額実績を以下に示します。

21 年度、22 年度は介護報酬 3%UP と介護職員の処遇改善交付金などで内部留保金額は増加しました。更に、西予市から譲渡された特別養護老人ホームあけはま荘関連事業が介護保険収入増加に寄与しました。障害者更生施設松葉学園、希望の森の 2 施設、20 年新設の特別養護老人ホーム皆楽園も好調であり、スプリンクラーへの補助金など公的補助金が有効に活用できたことも幸いでした。目標 1.2 億円ですが実績は H20 年度 1.4 億円、21 年度 2.1 億円、22 年度 2.2 億円でした。

一般会計 内部留保金額

		積立預金取崩収入	積立預金積立支出	当期資金収支差額
1	平成 15 年度	-11,505,000	49,515,000	63,418,739
2	平成 16 年度	-59,431,000	57,280,000	87,567,162
3	平成 17 年度	-2,000,000	40,600,000	46,076,029
4	平成 18 年度	-97,276,000	77,482,708	-18,276,239
5	平成 19 年度	-155,000,000	62,000,000	57,572,184
6	平成 20 年度	-15,000,000	2,000,000	155,437,486
7	平成 21 年度	-821,000	74,000,000	139,305,905
8	平成 22 年度	-	78,413,029	144,767,661
		当期内部留保金額	累積内部留保金額	備 考
1	平成 15 年度	101,428,739	835,767,627	松葉学園
2	平成 16 年度	85,416,162	921,183,789	
3	平成 17 年度			

		84,676,029	1,005,859,818	
4	平成18年度	-38,069,531	967,790,287	希望の森新住居棟
5	平成19年度	-35,427,816	932,362,471	皆楽園
6	平成20年度	142,437,486	1,074,799,957	
7	平成21年度	212,484,905	1,287,284,862	あけはま荘
8	平成22年度	223,180,690	1,510,465,552	



①生産性について

計画：1人当たり30万円台の確保を目指したいと考えております。

短期計画実績

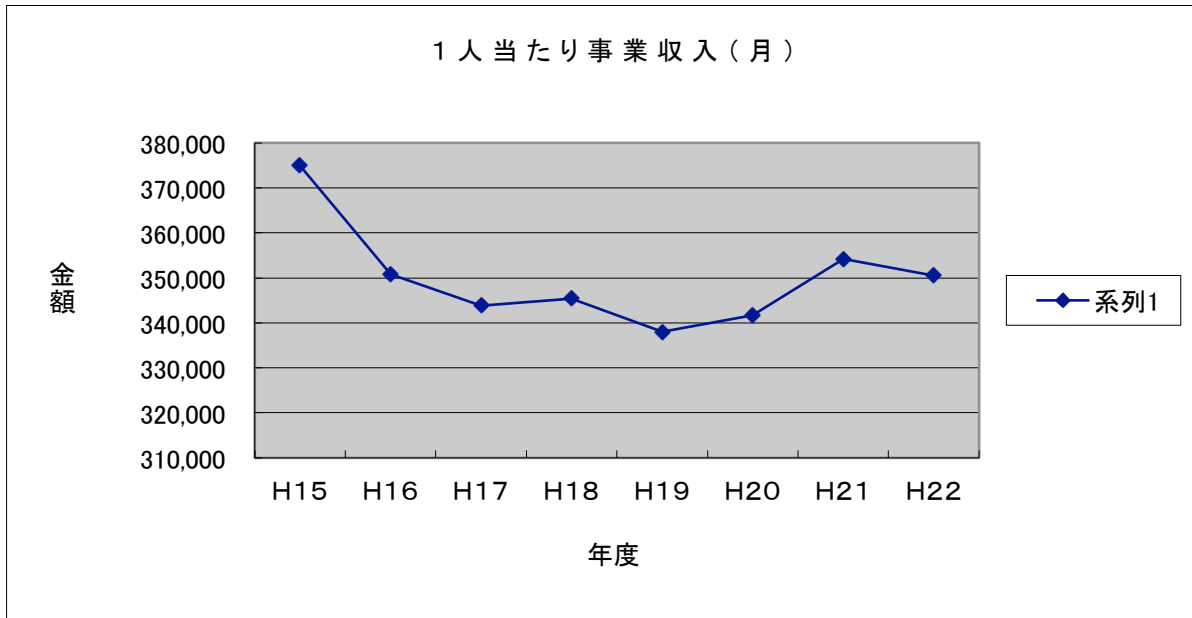
平成20年度事業収入見込み月額1.3億円が1.4億円、21年度見込月額1.6億円が1.8億円と好調に推移し1人当たり事業収入(月)は、目標金額30万円台に対し、平成20年度34万円、21年度、22年度も35万円台を確保しました。

生産性

1人当たり事業収入(月)

		事業収入/12	平均従事者数	1人当たり事業収入(月)
1	平成15年度	109,863,944	293	374,962
2	平成16年度	113,307,121	323	350,796
3	平成17年度	115,880,317	337	343,859
4	平成18年度	114,647,019	332	345,322
5	平成19年度	118,647,114	351	338,026
6	平成20年度	142,810,818	418	341,653
7	平成21年度		512	354,260

		181,380,900		
8	平成22年度	185,067,529	528	350,507



人件費については人件比率 66%程度、26 万円を維持していきたいと考えます。

短期計画実績

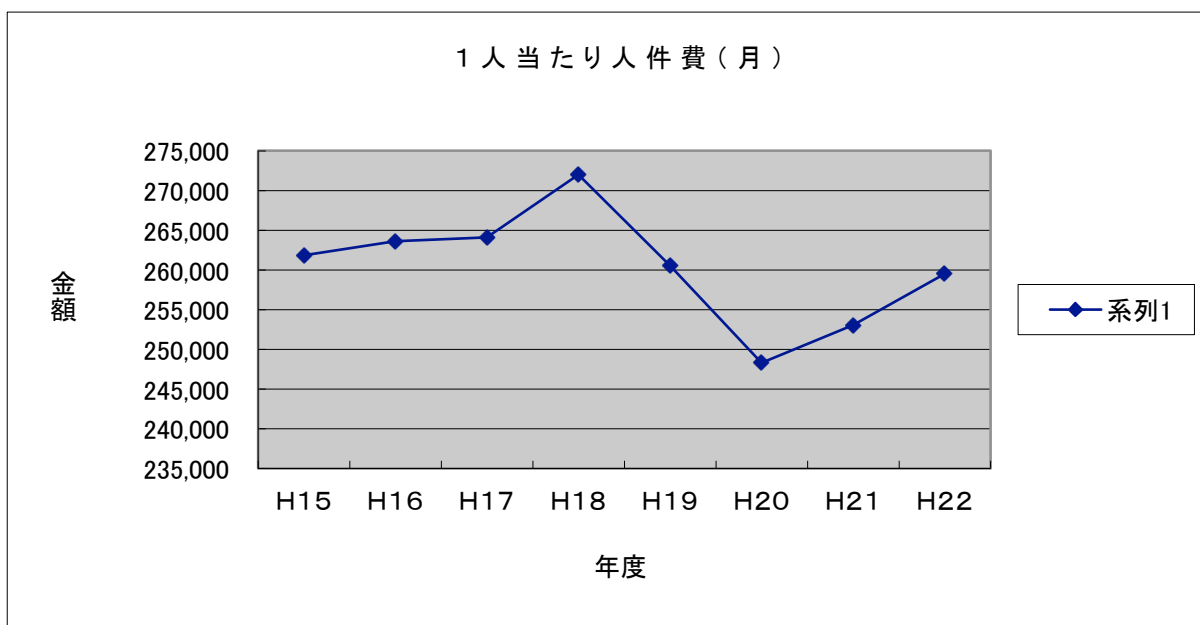
平成 20 年度は 248,293 円（人件費率=65.8%）、21 年度 253,038 円（人件費率 63.9%）、22 年度 259,533 円（人件費率=65.9%）。とほぼ計画通り推移しています。

生産性

1人当たり人件費（月）

		人件費 / 12	平均従事者数	1人当たり人件費（月）
1	平成15年度	76,726,960	293	261,867
2	平成16年度	85,138,522	323	263,587
3	平成17年度	89,002,761	337	264,103
4	平成18年度	90,286,018	332	271,946
5	平成19年度	91,448,546	351	260,537
6	平成20年度	103,786,628	418	248,293
7	平成21年度	129,555,607	512	253,038
8	平成22年度			259,533

		137,033,382	528	
--	--	-------------	-----	--



経常活動資金収支差額については、5年間月当たり約1千万円程度で推移しており、職員の増加により1人当たりの金額は減少しております。しかし、目標としては3万3千円程度としたいと考えています。

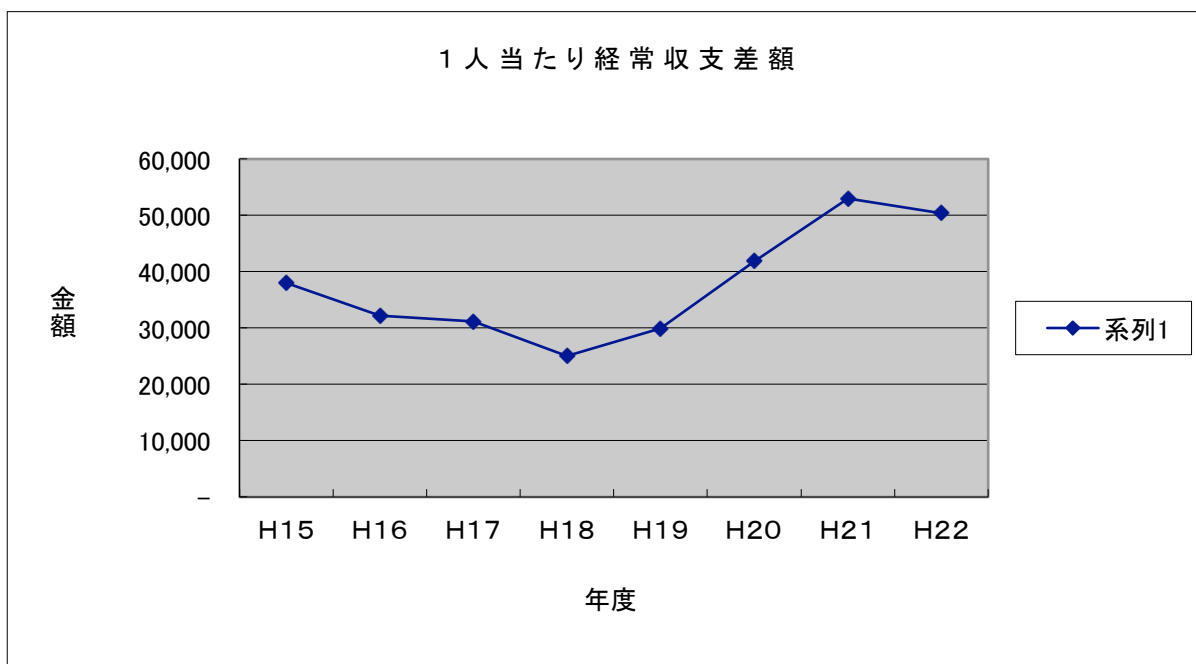
短期計画実績

1月当たり経常活動資金収支差額は平成20年度約1千7百万円、21年度2千7百万円、22年度2千7百万円と予想を上回り1人当たり経常活動資金収支差額(月)も平成20年度41,836円、21年度52,945円、22年度50,341円と目標額(=33,000円)を上回りました。

生産性

1人当たり経常収支差額(月)

		経常収支差額/12	平均従事者数	1人経常収支差額(月)
1	平成15年度	11,145,406	293	38,039
2	平成16年度	10,401,231	323	32,202
3	平成17年度	10,515,957	337	31,205
4	平成18年度	8,293,253	332	24,980
5	平成19年度	10,501,626	351	29,919
6	平成20年度	17,487,300	418	41,836
7	平成21年度	27,107,969	512	52,945
8	平成22年度	26,580,052	528	50,341



②収益性について

経常活動資金収支差額を総資産、事業収入との比較により利益率を求めました。

総資本経常利益率は、平成15年度と19年度を比較すると総資産が12億円増加し、利益率が3.5%減少しています。皆楽園、希望の森、宇和保育園などの建物資産の増加によるもので公立福祉施設を受託経営する21年度以降もこの傾向は一定期間続きます。しかし、減価償却等により目減りをする資産も高額となり、そのバランスの中で5%台を維持したいと考えます。

短期計画実績

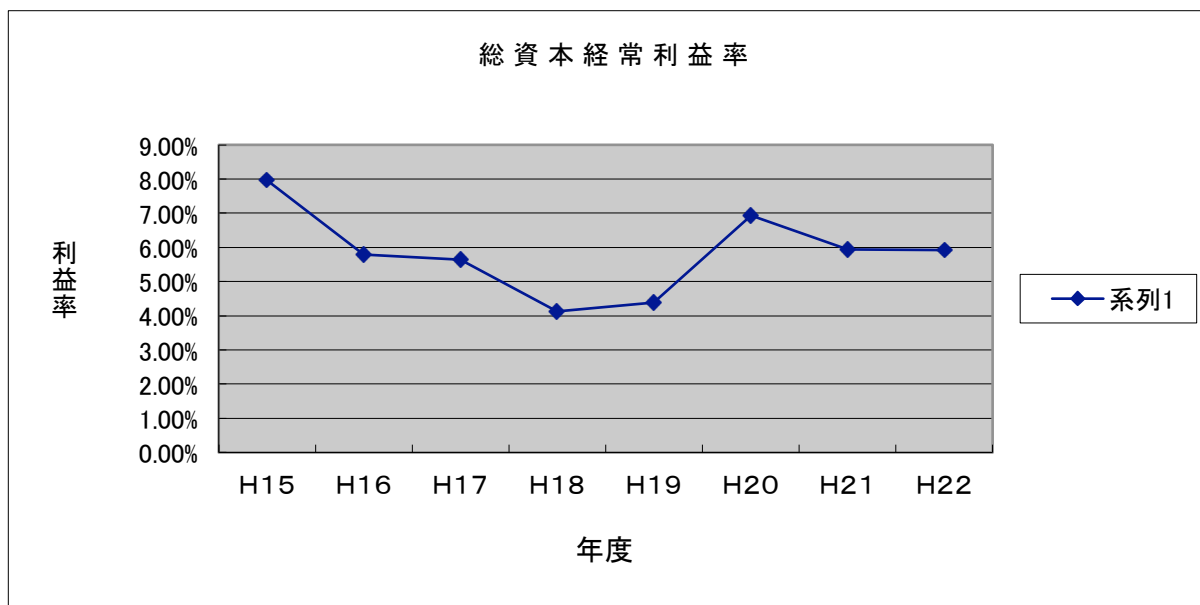
平成20年度6.93%、21年度5.93%、22年度5.92%と5%台後半を確保できました。

収益性

総資本経常利益率

		経常収支差額	総資産	総資本経常利益率
1	平成15年度	133,744,871	1,679,231,595	7.96%
2	平成16年度	124,814,773	2,155,122,285	5.79%
3	平成17年度	126,191,480	2,234,782,892	5.65%
4	平成18年度	99,519,031	2,411,225,274	4.13%
5	平成19年度			4.38%

		126,019,507	2,875,397,894	
6	平成20年度	209,847,605	3,027,755,638	6.93%
7	平成21年度	325,295,633	5,484,437,516	5.93%
8	平成22年度	318,960,625	5,387,536,148	5.92%



事業収入経常利益率は、平成 19 年度で 8.85%であります。今後の事業費単価の不透明さもあり 6%後半を維持する事を目標としたいと考えております。

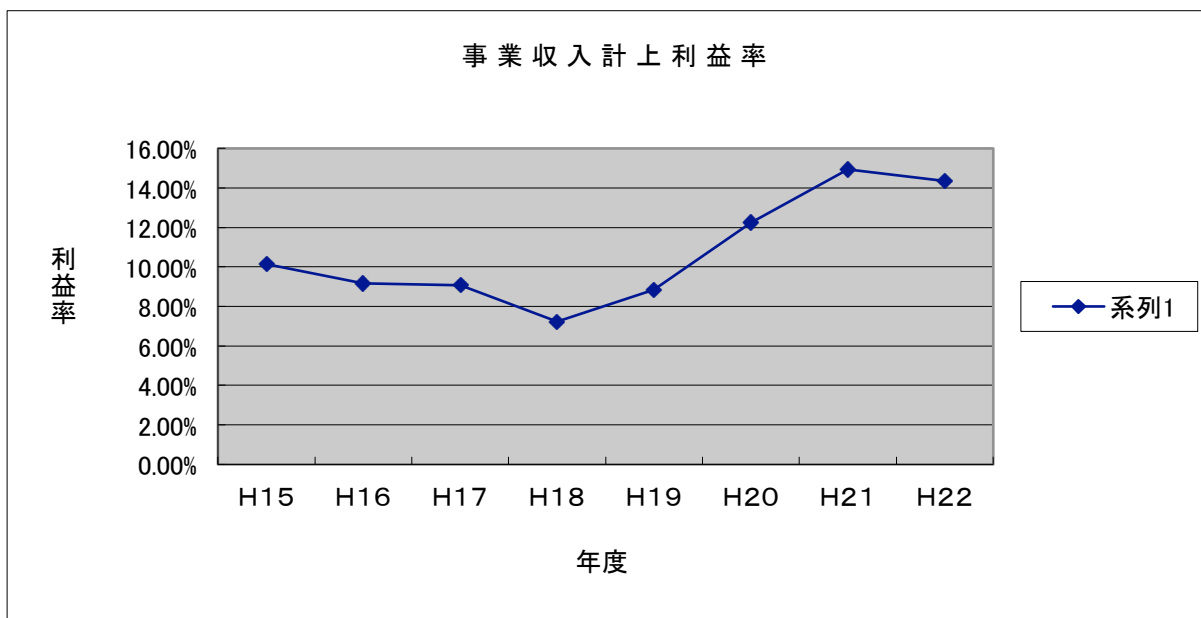
短期計画実績

平成 20 年度 12.25%、21 年度 14.95%、22 年度 14.36%と目標を達成できました。

収益性

事業収入経常利益率

		経常収支差額	事業収入	事業収入経常利益率
1	平成 1 5 年度	133,744,871	1,318,367,325	10.14%
2	平成 1 6 年度	124,814,773	1,359,685,450	9.18%
3	平成 1 7 年度	126,191,480	1,390,563,803	9.07%
4	平成 1 8 年度	99,519,031	1,375,764,224	7.23%
5	平成 1 9 年度	126,019,507	1,423,765,365	8.85%
6	平成 2 0 年度	209,847,605	1,713,729,815	12.25%
7	平成 2 1 年度	325,295,633	2,176,570,794	14.95%
8	平成 2 2 年度	318,960,625	2,220,810,345	14.36%



③安全性について

経常収入と経常支出を対比しながら経常収支比率を見てみると、106%～110%の間にあり、年間差額は9千9百万円から1億3千3百万円の収入増となっています。今後の目標として106%を目指し経営の安定に努めたいと考えます。

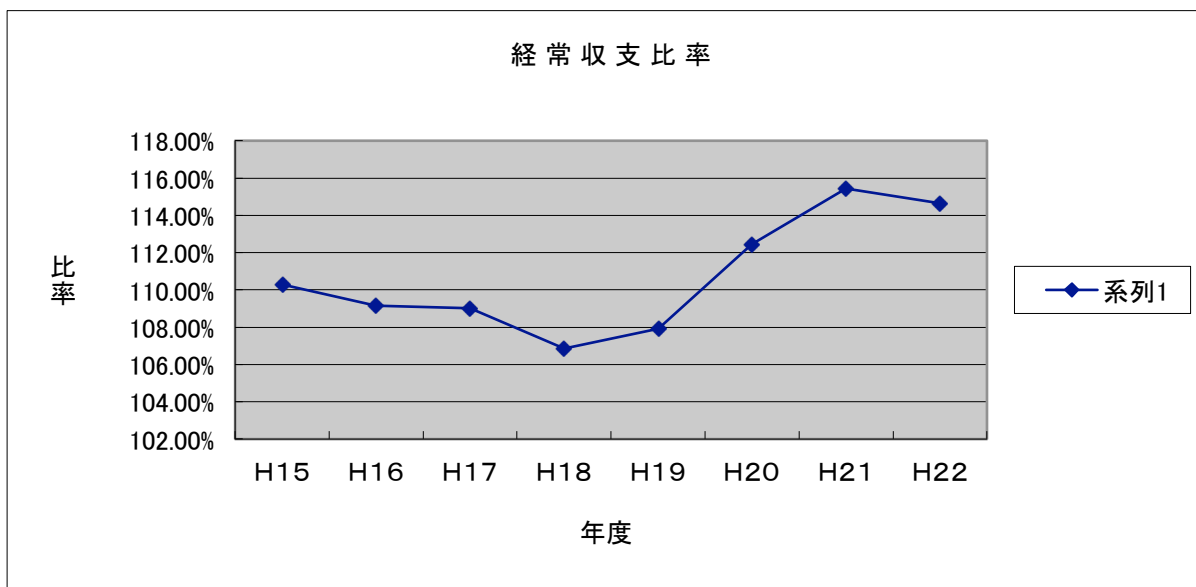
短期計画実績

経常収支比率は、平成20年度112.46%、21年度115.42%、22年度114.66%と高い比率を維持することが出来ました。

安全性

経常収支比率

		経常収入	経常支出	経常収支比率
1	平成15年度	1,432,463,455	1,298,718,584	110.30%
2	平成16年度	1,487,027,625	1,362,212,852	109.16%
3	平成17年度	1,524,716,803	1,398,525,323	109.02%
4	平成18年度	1,550,932,939	1,451,413,908	106.86%
5	平成19年度	1,718,787,047	1,592,767,540	107.91%
6	平成20年度	1,893,667,380	1,683,819,775	112.46%
7	平成21年度	2,434,636,658	2,109,341,025	115.42%
8	平成22年度	2,494,725,238	2,175,764,613	114.66%



参考

年度	減価償却費.累計
15	524,713,260
16	555,219,497
17	597,240,203
18	643,118,995
19	692,346,359

平成 21 年～30 年の主な計画数値

単位:円

年	経常収入	経常支出	経常収支差額	事業収入	人件費
21	2,170,000,000	2,025,000,000	145,000,000	1,953,000,000	1,432,200,000
22	2,230,000,000	2,084,500,000	145,500,000	2,007,000,000	1,471,800,000
23	2,260,000,000	2,114,500,000	145,500,000	2,034,000,000	1,491,600,000
24	2,290,000,000	2,144,500,000	145,500,000	2,061,000,000	1,511,400,000
25	2,300,000,000	2,154,500,000	145,500,000	2,070,000,000	1,518,000,000
26	2,310,000,000	2,164,500,000	145,500,000	2,079,000,000	1,524,600,000
27	2,340,000,000	2,194,500,000	145,500,000	2,106,000,000	1,544,400,000
28	2,350,000,000	2,204,500,000	145,500,000	2,115,000,000	1,551,000,000

29	2,360,000,00 0	2,214,500,00 0	145,500,00 0	2,124,000,00 0	1,557,600,00 0
30	2,370,000,00 0	2,224,500,00 0	145,500,00 0	2,133,000,00 0	1,564,200,00 0

(5) 地域貢献

① 地域とともに歩む

ボランティア、研修生、実習生の受け入れを推進し、施設の開放に努めます。

- 年間 1,620 人のボランティア受け入れ

ボランティア受入実績					
年度	単位	障害	保育園	高齢者	合計
H20	人数	468	460	523	1,451
H21	人数	346	454	656	1,456
H22	人数	361	958	811	2,130

② 地球に優しく

自然を愛し、環境に配慮した経営に努めます。

- 生ゴミのリサイクル化

短期計画実績

障害者 2 施設は 100% リサイクル達成し継続中
 保育園 7 園の内 4 園は取組が出来ておらず中期計画での取組となりましたが、あと 3 園の取組は計画通り進んでいます。
 高齢者施設では、石城あんしんの家が 100% リサイクルを維持しておりますが他の施設では中期計画での推進となりました。

- CO2 排出量 10%削減（ガソリン・可燃ごみ 10%削減）

ガソリン消費量						
年度	単位	障害	保育園	高齢者	合計	20 年比率
H20	ℓ	7,502	288	23,064	30,854	
H21	ℓ	8,515	232	25,470	34,217	111%
H22	ℓ	10,786	318	27,925	39,030	126%

短期計画実績

10%削減目標ですが 26%増加しました。障害者施設では事業エリア拡大と通所事業に伴い走行距離が大幅に増大しました。保育園では新規事業の学童保育で送迎車両が必要となり増加しました。高齢者施設においても通所介護事業の営業日数増加や短期入所事業による送迎距離の実質的増加が重なりました。ただし、ディーゼル車両のガソリン車への更新により軽油の消費量は H22 年度 10,648 ℓ（H20 年度 14,658 ℓ）で 23%削減しています。

可燃ごみ袋購入金額						
年度	単位	障害合計	保育園	高齢者	合計	20 年比率
H20	円	122,000	110,800	632,300	865,100	
H21	円	103,000	104,644	709,000	916,644	106%
H22	円	144,000	85,776	622,800	852,576	99%

短期計画実績

自然環境に負荷をかけない事業経営を心掛けるため、増加する可燃ごみの削減を目標としましたが1%の削減にとどまりました。生ごみや雑紙のリサイクルを進めることで削減を図りたいと思います。

○ 上水道使用量 10%削減

上水道使用量						
年度	単位	障害	保育園	高齢者	合計	20年比率
H20	m ³	17,510	11,863	37,450	66,823	
H21	m ³	20,220	11,404	37,361	68,985	103%
H22	m ³	18,060	11,755	38,704	68,519	103%

短期計画実績

貴重な水資源を有効に使用する為の目標設定でしたが3%増加しました。節水の意識を共有し中期に向けて具体策を講じます。

水道使用量の記録をとり施設間で比較することにより漏水の早期発見や節水の意識付けにつながりました。強制的に節水する器具等の購入についても検討します。

③ 災害対策：地震・津波災害の被災者への支援ができる体制作りを行ないます。

○ 水・食料3日分、法人内各施設合計で1,615人分の備蓄

非常用水、食糧備蓄					
年度	人	障害	保育園	高齢者	合計
H22	3日分	240	542	200	982

短期計画実績

3日分の水、食糧982人分が備蓄出来ました。東日本大震災を目の当たりにし、東南海・南海地震対策として計画の早期達成と内容の充実に向けて具体策を推進します。備蓄食料に関しては乾パンなどより、お米や即席麺などを備蓄する方向で計画します。とりわけ皆樂園とあけはま荘は海岸に位置しており津波による人的被害が危惧されます。迅速に対応可能な避難道や避難場所の確保など十分な準備が必要です。

(6) その他

法人設立40周年事業 平成24年2月29日以降に実施します。

40周年記念事業は平成24年4月1日に宇和文化会館で開催いたします。

法人設立記念の日に、10年・20年・30年の永年勤続表彰を行います。

2 障害者支援施設目標・数値計画

(1) 障害者支援施設松葉学園

目標概要(施設の現状及び主な計画)

- 1) 利用者の方の人権を尊重し、施設を地域の拠点として、施設の持つ専門分野を地域の福祉サービスに提供し、地域に開かれた学園づくりをめざす。
 - ① 施設内にとどまらず、外部の専門家や関係諸機関との連携をとる。
 - ② 新たな情報を受信、発信し、環境の変化に対応しながら、理念や基本方針を実現していく。
- 2) 自己決定、自己選択の場をより多く保障し、一人ひとりにあった暮らしに視点をおく。
 - ① 小規模施設、ユニットの特性を生かし快適な生活が提供できるよう、生活技術の研鑽に努める。
 - ② 地域の人達と共に障害福祉を考え理解し合える場となることをめざす。
 - ③ 豊かな経験の場を多く提供する。
 - ④ 利用者、職員、保護者がボランティア精神を持ち、地域福祉への援助、協力が行えるよう努力する。

具体的計画

1) 安定した事業の展開

① 障害者自立支援法への対応

平成 23 年度に障害者自立支援法の見直しが予定されていることと、現在の自立支援法自体も変動的であることから、制度の動きを見ながら、新体系への移行のための編成を行なう。

松葉学園新体系移行計画

平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
松葉学園 入所更生 30 人	松葉学園 入所更生 30 人	松葉学園 入所更生 30 人	松葉学園 施設入所支援 30 人 生活介護 30 人
いっとき館 生活介護 15 人 就労移行 9 人	いっとき館 生活介護 15 人 就労移行 6 人 就労継続 10 人	いっとき館 生活介護 15 人 就労移行 6 人 就労継続 10 人	いっとき館 生活介護 15 人 就労移行 6 人 就労継続 10 数人
夢の家 グループホーム・ケアホーム 18 人	夢の家 グループホーム・ケアホーム 18 人	夢の家 グループホーム・ケアホーム 18 人	夢の家 グループホーム・ケアホーム 30 人

松葉学園新体系移行後

平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
松葉学園 入所更生 30 人	松葉学園 入所更生 30 人	松葉学園 入所更生 30 人	松葉学園 施設入所支援 30 人 生活介護 47 人 就労移行 6 人
いっとき館 生活介護 15 人 就労移行 9 人	いっとき館 生活介護 15 人 就労移行 6 人 就労継続 10 人	いっとき館 生活介護 20 人 就労移行 6 人 就労継続 14 人	いっとき館 就労継続 20 人
夢の家 グループホーム・ケアホーム 18 人	夢の家 グループホーム・ケアホーム 18 人	夢の家 グループホーム・ケアホーム 23 人	夢の家 グループホーム・ケアホーム 34 人

② グループホーム・ケアホームの建設

新体系移行に伴い、住居の場を確保するため、グループホーム・ケアホームの建設を希望の森と合同で行なう。平成 23 年度開設予定。

③ 資金計画

平成 16 年 4 月に新築移転したばかりであるため、大きな施設整備はないが、施設経営という視点から計画性のある資金作りを行ない、確保し、事業展開に結びつける。

短期計画実施状況

① 障害者自立支援法への対応

平成 23 年 4 月新体系に完全移行し、障害者更生施設松葉学園は、障害者支援施設松葉学園(施設入所支援、生活介護、就労移行支援)として、また多機能型事業所(生活介護、就労移行支援、就労継続支援(B 型))だったいっとき館は、就労継続支援(B 型)事業所いっとき館として、サービスを展開している。

② グループホーム・ケアホームの建設

グループホーム・ケアホーム建設については、希望の森が建設関係の計画・実施をとり行い、平成 23 年度共同生活介護・共同生活援助事業所夢の家が定員増という形で支援に取り組み、松葉学園と新たに希望の森がバックアップ施設としての役割を担っている。

2) 人材育成

① 利用者中心の支援実践

資格取得や研修を通じての知識の習得だけではなく、利用者の立場に立った考え方やより質の高い支援のあり方を実践できる職員集団作りを行なう。

② 専門性の高い職員、資質の向上

利用者と共に考える暮らしの実現のため、職員相互の緊張感を保ち、職員自身が自分で考え工夫するという意識を継続していく。

必要な資格取得の啓発を行なう。

平成 23 年度までに社会福祉士取得者 4 人

平成 23 年度までに介護福祉士取得者 4 人

平成 23 年度までにサービス管理責任者 4 人

短期計画実施状況

資格取得については、社会福祉士、介護福祉士ともに取得の実績はない。しかし、社会福祉士養成校を終了した者や社会福祉主事資格を取得した者もあり、今後も資格取得に向けて啓発を行っていく。サービス管理責任者については、要件を満たす者を順次研修に臨めるよう取り組んでおり、人数的には目標を満たした結果となっているが、生活介護、就労、地域生活、児童とそれぞれの分野別研修が必要であるため、今後も研修受講を続ける必要がある。

3) 地域福祉の促進

① 就労部門の見直し

障害者の働く場を具体化していく。

いっとき館で展開している就労移行支援事業のあり方検討、合わせて、就労継続（B型）事業の展開。

平成 20 年度就労移行支援事業定員 9 人を平成 21 年度就労移行支援事業定員 6 人に減。

平成 21 年度新規事業就労継続（B型）支援事業定員 10 人開始。

② 短期入所・日中一時支援受け入れ

短期入所事業(定員 5 人)及び日中一時支援事業を継続して行なう。

③ 実習生、ボランティア受け入れ

利用者の余暇支援や地域への行事参加におけるボランティアの受け入れをしていく。

ボランティア受け入れ人数 年間 50 人

実習指導者の養成を行なう。(資格のあるものから)

④ 地球に優しい、地域に役立つ福祉施設

生ゴミの資源化を図り、100%リサイクルを継続する。

上水道使用料を 10%削減する。

CO2 排出量削減のため、夜間待機電力の活用等を行ない、電気消費量 10%削減する。

平成 23 年までに、南海地震対策として利用者、職員合計で 80 人と被災者 50 人分、計 130 人分の水、食料等 3 日分の備蓄を完了する。

短期計画実施状況

① 就労部門の見直し

就労移行の定員減や就労継続支援(B型)事業の開始は、計画通り行えた。平成23年度現在就労継続支援(B型)事業所いっとき館の定員は20名であるが、今後就労移行支援サービスを終えた利用者の方の受け入れや就労が困難な方の受け入れの場として、事業内容の充実を図っていく。

② 短期入所・日中一時支援受け入れ

平成22年度に開始した西予市障害児タイムケア事業により、障害児の日中一時支援利用者も増加の一途をたどっている。そのため、市や保護者の方からの要望も高くなっている児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業に平成24年度以降に取り組む予定である。

③ 実習生、ボランティア受け入れ

ボランティア受け入れ人数は、平成21年度77人、平成22年度81人。

④ 地球に優しい、地域に役立つ福祉施設

電気については、デマンド装置を取り付け、電気代節約に心がけたが、事業の拡大やそれに伴って利用者が増加したため、電気消費量そのものも増加している。

南海地震対策として、80人分の水、食料等3日分を備蓄したが、目標の130人分には至っていない。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
障害者自立支援法への対応	平成23年度松葉学園新体系へ移行	障害程度区分認定完了			
	実績	障害程度区分認定完了	平成23年度松葉学園新体系へ移行完了		
	サービス管理責任者4人	2人	2人		
	実績	平成21年度生活介護分野1人就労分野1人計2人 平成22年度生活介護分野1人就労分野1人相談支援1人計3人	平成23年度生活介護分野1人就労分野1人地域生活分野1人児童分野1人計4人		
	グループホーム・ケアホーム建設(希望の森と合同)	資金確保 建設に向けての計画協力	新グループホーム・ケアホーム(定員10人、生活住居2箇所)事業の開始		自己資金 10,000
	実績		平成23年度生活住居2か所増、定員34人		

備品・車両等の更新	パソコン 4台		更新		自己資金 1,200
	軽自動車1台		更新		自己資金 1,000
	ホロ付きトラック1台			更新	自己資金 1,000
	ワゴン車8人1台			更新	自己資金 3,000
	ワゴン車10人1台			更新	自己資金 3,000
人材育成	サービス管理責任者	松葉学園1人以上 いっとき館1人以上	毎年1人以上研修受講		
	実績	平成21年度生活介護分野1人就労分野1人計2人 平成22年度生活介護分野1人就労分野1人相談支援1人計3人	平成23年度生活介護分野1人就労分野1人地域生活分野1人児童分野1人計4人		
	社会福祉士 4人	2人 実習指導者研修受講(資格のある者)	2人		
	実績	0人			
	介護福祉士 4人	2人	2人		
	実績	0人			
就労部門見直し	いっとき館就労見直し	就労移行支援事業の継続 定員6人 就労継続支援(B型)事業開始 定員10人			
	実績	平成21年就労継続支援(B型)事業開始定員10人 平成22年就労継続支援(B型)事業定員4人増	平成23年度松葉学園新体系移行に伴い、就労継続支援(B型)事業所いっとき館として、定員20人		
	自活訓練棟改装	自活訓練棟を仕事の場として改装			自己資金 3,000
	実績	児童養護施設吾子苑建設予定地となり、改装は中止とする。			
新事業計画			児童発達支援事業・障害児放課後等デイサービス事業の開始		

(2) 障害者支援施設 希望の森

施設の目標

希望の森は、施設開設から24年を経て、社会情勢や障害者福祉施策の変化する中、利用者一人ひとりのニーズに、より柔軟に対応しながら、これまで培ってきた信頼と施設の持つ専門性を福祉サービスという社会資源として提供し、地域と共に生きる福祉の拠点としての希望の森をめざす。

1) 安定・継続的事業の展開

1 障害者自立支援法への対応

法施行後、5年の経過措置が切れる平成23年度を目途として、新体系への移行を計画し、平成21年度には入所利用者の障害程度区分認定を完了する。又、新体系移行後の事業は、①生活介護事業、②就労継続事業、③相談支援事業、④グループホーム・ケアホーム事業であることを予測し、21年度には、移行後の①生活介護事業、②就労継続事業を想定した職員を事業ごとに専属に配置し、生活介護（日常生活）における安全性・快適性と就労継続（生産活動）における作業の専門性・経済性の両立をめざしながら、移行後の事業経営に備える。

現在、障害者自立支援法自体も見直しの動きがあり、新体系への移行は、流動的であるが、時々々の状況により、スムーズな対応ができるよう備える。

2 住居の確保と改修工事

生活介護（入所支援）事業の定員削減予定により、グループホーム・ケアホームの設置を計画し、希望の森、松葉学園、在宅の利用者も含めグループホーム・ケアホームでの生活を希望する方に対しての生活の場を確保する。又、生活介護（入所支援）における個人のプライバシーの確保と住まいのバリアフリー化を進め、働くこと、余暇活動を含めた生活の豊かさをめざす。合わせて、ショートステイの居室確保も図る。

2) 人材育成

新体系の事業におけるサービス管理責任者の確保と利用者の立場に立ち、一人ひとりの人生を豊かなものとしていく支援の継続性を図る為、より質の高い職員集団をめざして、資格取得の啓発を行なうとともに、職員一人ひとりが「細やかな感性と配慮の心を持ち人間性の向上」をめざす。

又、就労継続事業における作業の経済性を確保する為、職員の作業における専門性を高め、働くことの喜びとともに、利用者への工賃支給に努める。

23年度までに「サービス管理責任者」を6人確保

25年度までに「社会福祉士」を4人確保し、ソーシャルワーカー・ジョブコーチを育成する。

3) 設備の改修・更新

- 1 設備の改修・更新は別紙の通り
 - 2 防火体制の整備として、平成22年度中にスプリンクラーの新設工事を行なう。
- 4) 地球に優しい事業経営に努める
- ・ 上水道使用量を10パーセント削減する。
 - ・ 資源のリサイクルを図り、可燃ゴミを10パーセント削減する。
 - ・ CO2排出量を減らす為電気、ガス、ガソリン、重油等消費量ベースで10パーセント削減する。
 - ・ 生ゴミの資源化を図り、100パーセント削減する。生ゴミ処理機の購入
- 5) 地域とともに歩む福祉施設として、ボランティア受入人数 年間180人を目指す。
- 6) 平成22年度までに、南海地震対策として、利用者、職員合計80人と被災者80人、合計160人の水・食料3日分の備蓄を完了する。

短期計画実施状況

最大の課題であった障害者自立支援法新体系への移行は22年度末に完了し、23年度から障害者支援施設希望の森として生活介護(定員50人)、施設入所支援(定員40人)、松葉学園夢の家の所属ケアホーム(定員10人)、短期入所事業所、相談支援事業所で新たなスタートをきった。

【施設改修】においては、居住スペースと作業スペースを分けるため、補助により新たな作業棟を新築し、交流ホームは生活介護における創作・訓練の場として使用するため、渡り廊下を設置、トイレ等の改修も行った。

又 施設近くに、民間業者によりケアホーム(定員10人)を新築していただき、居住の場を確保し、施設入所支援の定員を40人に減員することで、施設本体もほぼ個室化し、プライバシーの確保が図れることとなった。

【防火体制整備】では、23年度事業として補助を受け、施設本体及び居住棟、交流ホームにスプリンクラーの設置工事を行い完了した。

【設備備品の購入】では、施設西側に駐車場の整備をし、20台分の駐車スペースを確保、テレビの地上デジタル化に伴い、新型テレビに更新、軽自動車は寄付により、車いす対応の車両を購入した。

【地球に優しい経営】として、光熱水費の削減に努めるも、意識の徹底が図れなかったためか、顕著な効果は見られなかったが、老朽化した設備を小まめに改修することで水・ガス等の使用量が抑えられている。生ゴミの処理については、処理機械の購入により、施設内で生ごみを100パーセント堆肥として処理することができるようになった。

【震災対策】【地域と共に】については、ほぼ達成することができたが、東日本大震災をうけより具体的な対策を講じることが求められる。又、地域とともに開催するカーニバルなど、多くのボランティア(H22年度280人)に支えられている。

【人材育成】では、サービス管理責任者の研修4人、相談支援従事者研修2人、又 社会福祉士1人、介護福祉士1人がそれぞれ資格を取得している。

経過の進行表

施設目標	数値目標	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
事業の新体系移行	H23年度中 生活介護・就労継続	障害程度区分認定 ブロック作業廃止	23年度サービス 管理責任者4人 在宅利用者の受入		
	実績	22年度末移行完了			
	居室等の改修工事		定員40～45人の 施設入所		
	実績	23年度から施設入所定員40人に減	交流ホームトイレ改修、居住棟渡り廊下設置		3,340
	ケアホーム 8～10人定員の開設		開設予定		自己資金 10,000
	実績	ケアホーム開設10人			新築借家
	生ゴミ処理機	新規購入			自己資金 1,500
	実績	21年購入済			1,450
	駐車場整備	整備			自己資金 1,500
	実績	21年整備済			1,500
	作業場・車庫	整備			自己資金 1,500
	実績	21年車庫・22年作業棟新築			1,600 国補助11,865
	食堂椅子テーブル	購入			自己資金 1,000
実績	購入済			950	
防火体制整備	スプリンクラー設置工事	補助事業 県と協議	22年度の事業 (設計見直し)		自己資11,000 補助金19,100
	実績		23年度 工事済		自己資金 9,440 国補助19,120
備品・車両等の更新	テレビ更新		H22～23年度 食堂・娯楽室3台 支援員室2台、交流ホーム1台		自己資金 1,000
	実績	22年購入済			390
	作業トラック			更新	自己2,300
	9人乗りワゴン車			更新	自己1,500 補助1,000
	10人乗りワゴン車			更新	自己2,000 補助1,000
	軽乗用車			更新	自己資金 1,300
	実績	寄付で購入済			1,650
ホ口付きトラック				更新	自己2,300

	普通乗用車			更新	自己1,500 補助1,000
	農耕トラクター			トラクター(中古)	自己1,500
	エアコン		食堂、事務室	娯楽室、訓練室 食道 居室16室 職員室・支援員室	自己資金 4,000
	ノートパソコン			更新6台	自己資金 1,000
	実績	2台購入済			280
	給湯用ボイラー			更新	自己3,500
	厨房設備			ジェットオープン ガステーブル 消毒保管庫 冷凍冷蔵庫	自己資金 3,500
	実績	食器洗浄機リ ース			
人材育成	サービス管理責任 者6人	研修4人	2人		
	実績	4人			
	社会福祉士 4人		4人		
	実績	1人取得			
	介護福祉士 2人		2人		
	実績	1人取得			

3 乳幼児施設目標

(1) うわまち南保育園

目標概要

地域や自然を活用した体験を根底に置き、零歳児からのからだづくり、人と関わる力の基礎づくりの強化を図る。看護師のいる保育園として、安心安全に努め、保護者の信頼を深め、入園児の増加を目指す。

具体的目標

- 施設整備 H21年度 ○パソコン購入（1台リース）
○プリンター購入（リース）
○乳児室ロッカー更新（2台）
○二階外通路人工芝更新

中期計画 ○老朽化エアコン更新（2台） ○生ゴミ処理機（リース）

人材育成 保護者の抱える様々な悩みを受けとめ、解決に向けて支援を行える職員を育成する。（カウンセラー）

短期計画実施状況

施設整備については、平成21年度に乳児室ロッカー2台を購入し、平成22年度にはパソコン1台（リース）、プリンター1台（リース）を購入しました。また、平成23年度に2階外通路及び屋上の人工芝を更新し短期計画であげていたことを実施することができました。また、平成23年度住宅・建築物耐震化緊急支援事業の補助を受けて耐震化診断を行い基準の強度が確認されました。

- ・利用者サービスについては、病後児保育事業を平成20年度に立ち上げ、定着してきております。制度が変わる中、西予市と協力しながら適切に運営してまいります。
- ・職員研修は予定通り実施することができました。平成23年度にQC入門講座を1名が、受けました。今後も幅広い視野で保育ができる保育士となって資質を高めていけるよう、さまざまな研修の情報にアンテナを張って積極的に受講していきます。
- ・保護者満足度への取り組みについては前回より不満、やや不満は60%の削減で、目標には達成していませんが、今後も保護者の満足度を上げることができるよう努めてまいります。
- ・人材の育成では、初級カウンセラーの資格を3名取得し、異動等で平成23年は2名、中級カウンセラーを1名採用と中期での目標を達成することができました。
- ・ボランティア受け入れは、平成22年度は342人と目標を上回ることができました。地域ボランティアの方のご協力でいろいろな体験を保育の中に取り入れることができ大変ありがたく、今後も引き続き行っていきたいと思います。
- ・災害対策は、米は備蓄目標を達成しておりますが、メニューを考えたり、飲み水だけで

なく、雑用水の備蓄などより具体的な対策を考えてまいります。

- ・環境保全是、生ごみの資源化やごみの削減など改善できていません。処理機はあるものの、旧型なのでフル回転できず削減につながっていません。中期計画にあげております生ゴミ処理機のリースか購入に向けて取り組んでまいります。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
安全快適な園舎	園舎改築			目途をつける	
	実績	H23耐震性診断受診…適切と評価認定につき10年間建替えは行わない	耐震性診断を受けての工事		補助金 1.207 自己資金 300
利用者サービス	病後児事業(自園型からオープン型への検討)		病後児事業オープン型への移行研究		
	実績	病後児事業(体調不良型)定着			
	職員研修	保育指針、絵画、リズム、給食、おもちゃ、健康、障害児ケース、保育部会	保育指針、絵画、リズム、給食、おもちゃ、健康、障害児ケース、保育部会	保育指針、絵画、リズム、給食、おもちゃ、健康、障害児ケース、保育部会	
	実績	目標達成			
保護者満足度への取り組み	不満、どちらかというとな不満の70%を削減				
	実績	60%削減			
人材の育成	初級カウンセラー5人		2人	3人	
	実績	3人取得(うち1人退職、1人異動で東保へ、転入1名)	←		
	中級カウンセラー1人			1人	
	実績		H23年1人採用		
	社会福祉施設長資格認定講習2人		1人	1人	
地域貢献への取り組み	ボランティア受入れ	80人/年	100人/年	120人/年	
	実績	H22 342人/			
災害対策	水・食料3日分備蓄	園児他130人	園児他150人	園児他170人	

	実績	園児他133人、3日分備蓄（米、水）			
環境保全	生ごみ資源化	20%	70%	継続	自己資金
	実績	生ゴミ処理機使用するが、フル稼働できず目標達成せず	生ゴミ処理機リース		
	燃えるごみ削減	10%	継続	継続	
	実績	0%			

(2) うわまち東保育園

目標概要

- * 現在は定員確保できているが、地域の状況や園児の兄弟を把握すると少子化傾向が顕著にうかがえる。
- * 保護者・地域のニーズの把握に努め、さらに利用者サービスの充実を図っていく。長期的には定員減となるので、一時保育等の事業拡大を検討する。
- * 地域の協力を得ながら、地域の環境を生かし、自然体験や実体験を保育の中心に置き心身共に逞しく心豊かなこどもを育成する。また、保護者との信頼関係作りに努め、子育ての良きパートナーとなるようにする。
- * 保育の質・職員の資質向上を目指して園内外の研修を行ない、自己研鑽に努める。

具体的目標

H21年度 ベランダひさし取り付け
 中期計画 調理台更新 園児ロッカー更新 生ゴミ処理機
 長期計画 総合遊具更新

短期計画実施状況

- ・施設整備については、平成21年度にベランダひさし取り付け、平成22年度に調理台更新を更新し、園児用ロッカーについては毎年2台ずつ更新をすることができました。また、平成22年度には、パソコン1台（リース）、プリンター1台（リース）を購入しました。さらに、保育環境の整備として、遊戯室のエアコンを設置し、心地よい環境づくりを図ることができました。平成23年度には県の芝生化補助事業をうけ、遊具周りの芝生化を実施しました。
- ・職員研修については、予定通り実施することができました。平成22年度にリスクマネージャー養成講座、平成23年度には保育所事故予防研修会を受講し、園内及び各保育園に報告し、職員研修に取り入れました。また、QC入門講座を1名が受講しましたので、今後の園内研修への取り組みに生かしていきます。平成22年度に初級カウンセラーを1名が取得し、異動により1名が転入し2名となり目標を達成することができまし

た。

- ・地域貢献のボランティアは平成22年度、90名のご参加を頂きました。今後も広く地域の方と交流を広げていきたいと思ひます。
- ・生ゴミ削減資源化につきましては、現状では、削減を図ることは困難で、今後の課題となりました。
- ・災害対策では、備蓄の量が、現状では2日分程度なので、量を増やすことと内容については検討し、より確かな備蓄をしていきます。
- ・中長期計画の追加については、施設整備として室内外の手洗い場の修繕を行います。今後も、施設整備を含めた保育環境の見直しを図るとともに、利用者ニーズの把握に努め計画の推進、検証をしていきます。

* 初級カウンセラーを平成25年までに2名養成する。(30年度までに5名)

* 園長・補佐候補者の中から福祉施設長専門研修会を1名受講する。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
園庭の設備				総合遊具の更新	民間補助 1,500 自己500
利用者サービス	サービス拡充			一時保育	
	職員研修の充実	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 保育専門分野研修	
	実績	目標達成			
人材育成	初級カウンセラー 5人	1人	1人	3人	自己資金
	実績	1人取得(1人異動で転入)			
	福祉施設長研修受講 1人		1人		自己資金
地域貢献	ボランティア年間 90人	80人/年	90人/年	90人/年	
	実績	H22年度90人			
環境保全	生ゴミ資源化	30%	70%	70%	
	実績	0%			
災害対応	3日分の水・食料利用者職員被災者	130人分	130人分	130人分	
	実績	86人			

(3) 中川保育園

目標概要

- ・ 地域の中の保育園として、子どもたちや老人（宅老所）との交流が出来るよう地域の中に根ざしていく。
- ・ 子どもたちとの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進し、子どもたちにふさわしい生活の場とする。
- ・ 保護者との緊密な連携の下、保護者の支援及び地域の子育てに関する支援を行う。

具体的目標

- ① 施設整備 H21年 下駄箱更新
中期計画 エアコン整備 総合遊具の更新 ベランダ塗装
- ② 災害対策 利用者職員被災者3日分の水、食料の備蓄
- ③ 人材育成 初級カウンセラー 施設長専門研修会受講
- ④ 地域貢献 ボランティア年間参加者受入
- ⑤ 地球にやさしい 生ゴミ資源化

短期計画実施状況

- ・ 平成22年度には、園児の安全面を考慮し、中期に計画していたベランダ塗装を始め、ブランコ、ジャングルジム等遊具下の安全対策工事を実施しました。また、平成22年度、23年度にかけて、保育室のエアコンを整備しました。
- ・ 中期に計画していた総合遊具も老朽化が激しいため、23年度内に自己資金にて更新しました。
- ・ 災害対策としては現在のところ、1日分の備蓄（米・水・ビスコ）しかなく目標達成には至りませんでした。さまざまな災害時に迅速に対応できるよう、マニュアルの見直し等を含め、備蓄計画を進めていく予定です。
- ・ 人材育成については、初級カウンセラーを2名の者が取得しました。今後もよりよい保護者支援ができるよう努めます。
- ・ 地域ボランティアの受け入れは、H22年度59名と計画を上回る事ができました。今後も地域の方々のご協力に感謝しながら、いろいろな活動をすすめていきたいと思えます。
- ・ 生ごみ資源化も、今のところ計画通りに進んでおりますが、生ゴミ処理機の有効な使い方や、地球にやさしい生活の在り方を工夫しながら今後も努力していきたいと思えます。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年 度	財源等 (単位：千円)
施設の改修	総合遊具		総合遊具更新		自己500 民間補助 1,100
	実績		H23完了		自己資金

	ベランダ塗装		ベランダ塗装		自己資金
	実績	ベランダ・遊具下 安全対策工事実施			
利用者サービス	職員研修の充実	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 保育専門分野研修	
	実績	目標達成			
災害対策	3日分の水食料備蓄：利用者職員被災者合計	70人	75人	80人	
	実績	園児職員1日分備蓄(米・水・ビスコ)			
人材育成	初級カウンセラー2人		1人	1人	
	実績	2人取得(うち1人は産業カウンセラーも取得)			
	福祉施設長専門研修会受講1人		1人		
地域貢献	ボランティア受入人数年間	30人	35人	40人	
	実績	H22年度59人			
環境保全	生ゴミ資源化	10%	20%	30%	
	実績	10%			

(4) 田之筋保育園

目標概要

- ・長期計画として、保育園で子どもとお年寄りとが一緒に生活できるようにし、地域の中に根ざした保育をしていきたい。
- ・地域、専門機関、保護者との連携を蜜にし、子育て支援を推進していく。
- ・研修で学んだ知識、技術や判断力が実践に活かされるようにし、職員一人ひとりの資質の向上を図る。

具体的目標

- ① 施設整備 ・フェンス更新 ・ロッカー更新 ・エアコン新設 ・倉庫の更新
・カーテンの更新
- ② 災害対策 ・利用者職員被災者への水、食糧3日分の備蓄
- ③ 人材育成 ・教育カウンセラー(初級) ・施設長専門研修会受講
- ④ 地域貢献 ・ボランティア年間受入
- ⑤ 地球にやさしい ・生ゴミ資源化

短期計画実施状況

- ・施設整備につきましては、外回りのフェンス、乳児室のエアコン新設工事を計画通り行うことができ、安心・安全・快適な生活送ることができております。全室のカーテンの老朽化が顕著に見られるため、子どもたちの快適な生活を考え、長期計画から前倒して中期で行うことといたしました。計画にありませんでしたが、厨房内の調理器具（オープンレンジ）・エアコンの更新を中期に追加したいと思います。
- ・災害対策について、備蓄計画は達成しております。ため池が決壊した場合など色々な災害を想定したマニュアル作りを行うことができました。
- ・初級カウンセラー、福祉施設長専門研修受講もそれぞれ1名ずつ取得することができております。今後も中長期にかけて受講を目指していきます。
- ・入所児童が減少し、平成23年度に保育園定数を45名から40名に減員することになりました。今後も厳しい状況であります。地域、関係機関と連携を取りながら、定員を維持していきけるよう努力していきたいと思っております。平成23年度、補助事業で園庭を全面芝生化しました。乳児から年長まで皆が芝生の上を走り回っております。虫など自然と触れ合う機会も増え、芝の緑がもたらす癒しの効果、温暖化防止といった、身体的・教育的・精神的・環境的側面で効果が期待されており、管理が大変ではありますが保護者、地域の協力を得ながら、今後も芝生を維持していきたいと考えております。また、在宅の子どもさんへの相談支援を強化し、より信頼される保育園を目指します。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
施設の改修	フェンス更新				
	実績	H21フェンス更新済			
	ロッカー更新				
	エアコン新設				
	実績	H21エアコン新設済			
	倉庫の更新				
	カーテンの更新			カーテンの更新	自己50 民間補助 100
	実績		H23 更新		自己資金
利用者サービス	職員研修の充実	保育指針研修 QC研修 運動・体力 研修 カウンセリング 絵 画・リズム 給食・お もちや 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・ 体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給 食・おもちゃ 健 康・障害児 保育 研修	保育指針研修 QC研修 運 動・体力研修 カウンセリング 保育専門 分野研修	
	実績	目標達成			
災害対策	3日分の水食料 利用者職員被災 者合計	70人	75人	80人	
	実績	70人分の米・水確保			
人材育成	初級カウンセラ ー 3人		2人	1人	

	実績	1人取得			
	福祉施設長専門 研修受講1人		1人		
	実績	H22 1人受講済			
地域貢献	ボランティア	65人	68人	70人	
	実績	H22年度125人			
環境保全	生ゴミ資源化	10%	20%	30%	
	実績	0%			

(5) 下宇和保育園

目標概要

- ・ 中長期を考え、今後入所児童が減少する傾向が考えられる為、空き部屋を利用しての放課後児童の受入制度としての学童保育の取り組みや地域における未就園児親子の育児相談・指導に当たるなど、総合的な子育て支援施設を目指したい。
- ・ 養護の充分行き届いた環境の下で、自然体験を通して体力作りやお遍路さんが通る保育園としてお接待に努め、自ら周囲の子どもや地域の人と関わる力を育てていく。
- ・ 保育内容については養護や教育の両面にわたり子どもの発達を促していけるよう、施設長をはじめ各職員が保育所内外の研修を通して、必要な知識及び技術の習得・向上に努める。また、職員の人材育成を行うことで、資質の向上を図る。

具体的目標

施設整備

- 中期計画
- ・ H22年度の学童保育開設に当たり、部屋を整備する。
 - ・ 固定遊具が古くなり危険なので更新する。

人材育成

- 長期計画
- ・ 初級カウンセラーの資格を3名取得させる。
 - ・ 福祉施設長専門研修を1名受講させる。

短期計画実施状況

- ・ 施設については、将来少子化を考えるにあたり、空き保育室を利用した学童保育を平成22年4月より開始しました。今年2年目に入り、順調に運営しております。今後も、保育園を卒園した後の児童の子育て支援に努めてまいります。また、陸屋根の防水工事を平成23年度に行い、雨漏りがなくなりました。
- ・ 総合遊具は、平成22年度に購入しましたが、他の固定遊具が古くなっており、その購入や修理、エアコンの購入が必要になるので、今後計画してまいります。
- ・ 人材育成については、初級カウンセラーを短期に1名取得し、中期に1名予定しており、保護者を支援していける職員養成に努めたいと考えております。
- ・ 災害に対しては、米・水を3日分用意していますが、乾パンや火を使わなくても食べられる食品など、防災グッズの準備を行い、災害に備えていきます。

- ・地球にやさしい環境作りでは、コンポストの利用や、生ゴミ処理機で肥料にして、保育園の畑で再利用していて、生ゴミの廃棄率が非常に少なくなっております。今後も、ゴミの分別をさらに行い資源化に努めたいと思います。
- ・下宇和保育園の特徴でありますお遍路さんのお接待を通して、子どもたちに「お接待の心」を養っていききたいと思います。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
施設整備 学童保育の 部屋の整備	H22年度までに必要な備品を準備する				市補助金
	実績	備品購入			
	固定遊具購入				共同募金 自己資金
実績	固定遊具更新				
利用者サービス	職員研修の充実	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 保育専門分野研修	
	実績	目標達成			
人材育成	初級カウンセラー 2人		1人	1人	
	実績				
	福祉施設長専門講習 受講1人			1人	
災害対応	3日分の水食料 利用者職員被災者合計	60人	80人	80人	
	実績	60人			
地域貢献	ボランティア年間受入	50人	55人	55人	
	実績	H22年度106人			
環境保全	生ゴミ資源化	30%	40%	50%	
	実績	60%			

(6) 明間保育園

目標概要

改築から30年、老朽化に伴いこまめに点検し、修繕等を施し安全管理に努める。

社会環境の変化、人間関係の複雑化の中で子供たちの生きにくさは大である。人としての基礎を育む大切な時期の子ども達と関わる職員は、様々な研修を重ね資質の向上を図る必要がある。さらに、地域・保護者・子育ての支援にも努める。

高齢者人口52.2%の集落で小学校の合併も予想される。益々過疎の寂しい地域となりそう

である。保護者の希望でもある園の存続ができるよう保護者や地域の人たちとの連携をもって、元気な地域、保育園づくりを行う。

具体的目標

- 施設整備 ・ 総合遊具の更新 ・ 防水塗装 ・ 耐震強度検査 ・ 洋式便器取替
・ テント張替
- 災害対策 ・ 利用者、職員被災者
- 人材育成 ・ 教育カウンセラー（初級） ・ 施設長専門研修会受講
- 地域貢献 ・ ボランティア年間受入
- 地域にやさしい ・ 生ゴミ・燃えるゴミ資源化

短期計画実施状況

- ・『施設整備』については、民間補助を受けて総合遊具設置を早めに実施することができ、園児の健康面に配慮した紫外線予防の砂場日除けテントの張替えもできました。また、計画には入っていませんでしたが、H23年度に交流行事に参加されるお年寄りや身体に障害を持たれた方のために洋式トイレへの更新を実施しました。その他、集落排水設備工事が終了しました。今後、中長期に向けて徐々に耐震強度検査や施設の状況を見ながら防水塗装の計画を進めていきます。新たに遊具安全対策マット設備(30万円)を目標に入れました。
- ・『利用者サービス』職員研修の充実では、事故予防対策として、法人全体で取り組んでおりますリスクマネジメント体制構築に向けた様々の研修を通し、職員の資質向上を図り安心安全な保育園作りの強化・信頼回復の為に努めてまいります。
- ・『人材育成』についてはH23年に1名受講しました。ストレス社会と言われる中、カウンセリング研修する事で自己や周りの方が生きやすくなることは、利用者の方への良い人的環境になることを信じ、資格取得に向け、引き続き声掛けあい継続できるようにしていきたいと思ひます。
- ・『地域貢献』では、ボランティア受け入れは、地域内外から年平均137名と目標を大きく上回りました。この多くの方たちと関わりが持て、お力をいただいたことに感謝申し上げ、これから小学校統合もあり、さらに地域内外の方との関わりを大切に豊かな心を育む保育に心がけていきたいと思ひます。
- ・『災害対策』において、米だけは備蓄し防災頭巾は各自できましたが。他のものはできておらず、今後具体的に対策を考えてまいります。
- ・『環境保全』においては、コンポストの利用方法、ごみ分別の徹底、光熱費等の使用分析をし資源の削減に努めてまいります。
- ・定員20名の小規模保育園です。地域での出生児も少なく入園児は減少傾向にあります。地域性を生かした特色ある保育を実践し地域内外からのご利用者増にも努めます。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画	中期計画	長期計画	財源等
------	------	------	------	------	-----

		H21～22年度	H23～25年度	H26～30年度	(単位：千円)
施設整備	総合遊具一基		総合遊具の更新		自己資金
	実績	遊具設置完了			民間補助
	砂場日除けテント		テント張替		
	実績	H23年度張替	←		
	防水塗装(漏水時)				
	耐震強度検査				
利用者サービス	職員研修会の充実	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 QC研修 運動・体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給食・おもちゃ 健康・障害児 保育研修	保育指針研修 研修 運動・体力研修 カウンセリング 保育専門分野研修	
	実績	目標達成			
災害対策	3日分の水食料	30人	30人	30人	
	実績	0人			
人材育成	初級カウンセラー 3人	1人	2人		
	実績	1人			
	福祉施設長専門講習受講 1人		1人		
地域貢献	ボランティア年間 受入	35人	50人	80人	
	実績	137人			
環境保全	生ゴミ資源化	50%	50%	80%	
	実績	0%			

(7) 宇和保育園

目標概要

保育園（子育て支援センター）が、子どもや保護者、地域にとって安心して、子育てや就労ができる、居心地のよい楽しい場となるように私達は、大切な子どもの人権を尊び、安全で安定した生活ができる環境を用意し、人や自然とふれあう実体験を通して、健やかな育ちを支えていくよう、自己研鑽に努め専門性を高めていきます。

具体的目標

- H21年度 ○パソコン購入（1台リース）
- 中期計画 ○老朽化エアコン更新（1台）○物置更新（一棟）○生ゴミ処理機
- 長期計画 ○物置更新（1棟）

短期計画実施状況

・平成22年に施設整備において計画には入っていませんでしたが、ベランダの屋根取り付

け工事をしました。雨が降ってもベランダを利用して広々と遊べるようになり、子どもたちにも良い環境づくりになりました。

- ・平成23年度に乳児室のエアコンが老朽化して使用できなくなりました。購入することにより快適に過ごせるようになりました。
- ・人材育成においては、初級カウンセラーを1名が取得しましたが、中期でも保護者の悩みを受け止め、寄り添えるような支援ができる職員を育成するため、初級カウンセラーを取得できるよう努めていきます。
- ・災害対策については、3日分の備蓄(250人分)としては不足しているため、中期において乾パンなどの購入をして備蓄分量を増やし、地域住民にも少しでも対応できるようにしていきます。
- ・総合遊具の老朽化が少しずつ進んでいるので、当園の規模にあった遊具を購入していき、子どもたちが安全・快適に遊べるようにしていきます。
- ・中期計画では地域貢献において、子育て支援センターでの専属ボランティアを含み、180人受け入れとしています。地域の方が、年間通して子どもたちと関わっていただいたり、保護者の方が、園庭の整備など積極的に活動していただいております。引き続きその輪が広がっていくような協力体制ができるよう努めていきます。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
設備の更新	総合遊具				共同募金・自己資金 1,800
利用者サービス	障害児ディサービス事業		障害児ディサービス事業の研究		
	病後時(オープン型)事業		病後時(オープン型)事業の研究		
	変更		H24内容変更研究取りやめ		
	職員研修の充実	保育指針研修 QC研修 運動・ 体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給 食・おもちゃ 健 康・障害児 保育 研修	保育指針研修 QC研修 運動・ 体力研修 カウンセリング 絵画・リズム 給 食・おもちゃ 健 康・障害児 保育 研修	保育指針研修 QC研修 運動・ 体力研修 カウンセリング 保育専門分野研 修	
	実績	目標達成			
保護者・職員の支援	親・職員の相談、 支援 苦情の対応等の 充実			カウンセラー配 置	
災害対応	3日分の水食料 利用者職員被災 者	園児・保護者・職 員(250人)地域 住民20食	園児・保護者・ 職員(250人) 地域住民20食		

	実績	園児職員170人	追加購入予定		
人材育成	初級カウンセラー 合計6人		3人	3人	
	実績	1人取得			
	福祉施設長専門研修 2人		1人	1人	
地域貢献	ボランティア年間	150人	子育て支援センターでの専属ボランティア含み 180人		
	実績	145人受入			
環境保全	生ゴミ資源化	20%	70%	70%	
	実績	20%			

保育園数値目標検証：園長会でのとりまとめを引用

【考察】・中長期の計画実践において、職員で具体的な対策を話し合うことがないまとなり、意識統一ができなかった。(たとえば、数値を職員の目の届くところに掲示する。具体的な取り組みのプランや見直し)

- ・省エネ・節水の取り組みは従来よりも声かけはできたが、顕著な効果は見られない。
- ・電力・水道・灯油どれをとっても使用量が増えてきている。特に電力が大幅に増えている。エアコンの増設、園児が増えたため、それまで使用していなかった部屋を保育室として使用し始めたためと思われる。(中川保育園)
- ・その年の気候にも左右されている。

【電力】

- ・エアコンの故障などで必要以上に電力をくっていた。(宇和保育園)
- ・エアコンだけの部屋が多い。(ホール、さくらんぼ、センター)
- ・日当たりが悪く電気をつけることが多い。
- ・ポットの保温で長い時間使用している。
- ・便座の電気代がかかっている。
- ・人数が多い分部屋数も部屋も広く、冷暖房が効くまでに時間がかかる。
- ・パソコンの台数も多く、使用する回数も多い。
- ・保育時間が長いため、電気を使用している時間が長い。
- ・冷暖房で電気代がかかっている。その分灯油代はかかっていない。
- ・電灯を天気の良い日もつけていたりすることがある。構造上、1階の隅の部屋は日当たりが悪く日中でもつける。
- ・古いエアコンは電力を消費している量が多いと思われる。

【水道】

- ・トイレ、砂場近くに湯沸し意を新設したことで、ガス・水道とも増えたと考えられる。
- ・外の手洗いは必要な時しか蛇口を付けていないので無駄は少ないと思われる。
- ・自動の水道が多く、出しっぱなしにならないことで、水道料が人数の多さに比べ量が少な

いのでは？(宇和保育園)

- ・芝生への散水で夏場増えたかもしれない。水遊びの多い時期は水圧を下げています。

【LPG】

- ・LPGはその年の措置年齢や健康状態により、多少差が出る。(離乳食・アレルギー食等)

【ガソリン】

- ・ガソリンは、保育園間でも出し合っている。

【生ゴミ・ゴミ袋】

- ・子どもの人数から言って、他の園よりゴミ削減の努力は見られている。(宇和保育園)
- ・ゴミ袋を買った数より、使った数の方がわかりやすい。
- ・乳児の人数が多いので、おむつの量が多い。
*3年前の監査で、家庭へ持ち帰りしないようにと監査で指摘を受け保育園で処分するようになる。

【ボランティア】

- ・ふれあい体験ボランティアは、インフルエンザの流行で、中止した年があった。(平成21年)
- ・地域ボランティアが日常的に来て頂くようになり、一気に数字があがった。(うわまち南保育園)

今後の取り組み

- ・暖房を入れているときは、出入り口もこまめに閉める。
- ・ボイラーは、夕方子どもたちが1ヶ所に集まった時点で、スイッチを切る。
- ・ボイラー暖房、エアコンのフィルターの掃除をこまめに行う。
- ・給食室の食器返却口の開け放ちにも影響があり、こまめに閉めれば違う。(宇和保育園)
- ・水道の元栓を閉めたり、毎日メーターをチェックしていることで、無駄に使ったり、漏れたりしたとき、すぐに気付けるので水道料も少ない。(宇和保育園)
- ・ポットは昼頃コンセントを入れ、休憩最後の人が、コンセントを抜く。
- ・トイレの便座コンセントを朝最初に使用する人がスイッチを入れ、トイレの掃除をするときに抜く。
- ・換気扇のスイッチを切って帰る。
- ・生ごみについては、現在の設備・取り組みでは減らすことが難しいので、生ごみ処理機の購入または、レンタルを視野に入れる必要がある。(うわまち東保育園に設置を検討)
- ・ボランティアは、保育園に足を運んでもらえる人材を確保する努力が必要。

4 高齢者施設目標・数値計画

1) 特別養護老人ホーム松葉寮

目標概要

私達松葉寮は、介護を必要とする老人のお世話をすることにより成り立ち、その使命は利用者の方に生きがい（人間としての幸せ）をそれぞれの生活の場で感じながら1日を過ごしていただくお手伝いすることです。そのために、私達は常に仕事に対して『安全・確実・信頼』の視点を求めながら「自分が利用したい、自分の一番大切な人に利用させたい」施設運営を行ないます。

- ① 平成12年4月1日西予市施設として移転改築した松葉寮は、平成21年4月1日から法人の経営に移管され、築10年を過ぎることにより設備の更新や運営の中で改修の必要な箇所について10年計画により補助金を有効的に活用して整備したいと考えています。また、新規の事業展開として高齢者住宅事業への参入も1億円の規模で検討したいと考えています。その結果総額2億3千6百万円の施設・備品計画を立てます。
- ② 「自分が利用したい、自分の一番大切な人に利用させたい」施設を作ることが、利用者・職員・経営の満足度を高める事につながると思い、3つのそれぞれの分野で計画を立てました。また、地域への貢献として震災、地域とのつながりを深める事も求めています。
- ③ 現施設運営面に対する、ご意見の中で当施設としての弱点が浮き彫りになりましたのでその部分の改善を2年後には70%完了するよう目標にしたいと考えます。

短期計画実施状況

施設改修については、ショートステイのリビング整備を計画通り実施する事が出来ました。また、利用者サービス向上の為に資格取得を促した結果、介護福祉士8名が誕生しましたが、全職員の接遇研修は実施できておらず、中期へ向けての課題となりました。職員からの要望である、施設内託児所、学童保育については、施設、法人内のアンケートによりニーズを把握したので、中期での開設に向けて取り組みたいと思います。【経営満足の向上】については、給食業務外部委託を1年早めて平成22年度から開始しました。利用率の向上も95%と、目標に比べ2%増となった反面、省エネ対策、保守業務見直しは未実施となり中期へ引き継ぐこととなりました。【震災対策】【地域と共に】については、計画をほぼ達成しました。尚、災害時備蓄3日分だったところが、「利用者・職員1日分」となっているのは、給食委託業者が全国ネットで経営しており、他県から空路・陸路等での応援が望める為です。

中・長期計画への追加については、特殊浴槽整備を長期2台から前倒しで中期に1台(4,500)とし、長期に1台(4,500)とすることにしました。計画にはありませんでしたが、業務用洗濯機を中期に2台(3,000)、長期に2台(3,000)を自己資金において追加し、作業療法士も中期に1人、長期に2人採用したいと思います。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
施設の改修	ショートステイのリビング	整備			自己資金 13,000
	実績	完了			12,000
	ひなた・さくら・コスモスリビング・厨房整備		整備		自己資金 30,000
	浴室の改修		個室浴設置		自己資金 5,000
設備の更新 (リース対応について検討)	老朽化エアコン更新		50台 (20,000)	50台 (20,000)	自己資金 30,000 民間補助 10,000
	特殊浴槽整備			2台 (9,000)	自己資金 6,000 民間補助 3,000
	車両整備		2台 (3,000)	4台 (6,000)	自己資金 4,500 民間補助 4,500
	ボイラ整備			2台 (30,000)	自己資金 15,000 民間補助 15,000
新規事業への取組	高齢者住宅事業への参入			定員10人程度 (100,000)	自己資金 50,000 補助金 20,000 借入 30,000
財源	自己資金	21,000	51,500	89,000	153,500
	補助金		6,500	46,000	52,500
	借入			30,000	30,000

平成19年度末現在自己資金180,000千円

②. 「安全・確実・信頼」を求めて

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
利用者サービス向上	介護福祉士 36人	6人	15人	15人	
	実績	8人			
	管理栄養士1人		1人		
	社会福祉士2人		2人		

	職員研修会の充実 施設環境の向上	全職員の接遇研修 ユニットリーダー研修 先進施設研修・QCリーダー研修	初心者・中堅・リーダー研修・ユニットリーダー研修・先進施設研修・パート研修	初心者・中堅・リーダー研修・ユニットリーダー研修・先進施設研修・パート研修	
職員満足の上 向	子育てと仕事の両立	施設内託所・学童保育の研究	施設内託児所・学童保育施設開設	施設内託所・学童保育運営	
	実績	H22 子育て支援プロジェクト発足・発動			
経営満足の上 向	給食業務の外部委託		外部委託開始		
	実績	H22.4～民間委託開始	←		
	省エネルギーの取組	空調・電気スイッチを各部屋及びグループ化設置検討	ソーラー発電研究	ソーラー発電研究	
	実績	未設置			
	保守業務の見直し	空調保守	消防設備		
	実績	中期計画へ			
	設備のリースへの移行	毛布	ベッド・オムツ・ナースコール	送迎車両・電話機	
	実績	現在の物が使用出来る為長期計画へ延期			
	ベッド稼率	93%	96%	97%	
	実績	95%			
震災対策	災害常備食の備蓄(3日分)	利用者・職員100人・地域住民50人	利用者・職員100人・地域住民50人	利用者・職員100人・地域住民50人	自己資金800
	実績	利用者・職員100人1日分(厨房委託業者)地域住民50人3日分(松葉寮)			
	自家発電装置の整備		1,000		自己資金1,000
地域と共に	年間365人のボランティアの受け入れ	受入システム作り	専任ボランティア職員配置	ボランティアセンター	
	実績	ボランティア委員会による受け入れマニュアル・活動記録完備			
	在宅介護支援事業1		介護教室・介護相談事業開始	介護教室・介護相談事業	

2) ケアハウスれんげ

目標概要

利用者が、施設を利用される前提として身の回りの事が自分で出来る60歳以上の方(自炊が出来ない程度の方)がご利用される住まいと福祉機能を持った「軽費老人ホーム」であります。そのために心身ともに健康で利用されている皆さん同士が、隣人として心通わせる生活をお送りいただくよう援助しながら、中・重度介護の必要性が生じたときには施設として対応出来るシステムを作りたいと考えます。

① 施設生活の充実を求めて。

- ・ 特定施設入居者生活介護事業の導入
- ・ 地域との交流（地元老人クラブ、婦人会、保育園、希望の森、松葉学園等）
- ・ 半年に1回ぐらいの頻度で、一人で外出する自信の無い人に付き添って、本人の行きたい所へ一緒に同行する事。
- ・ ケアハウス会で一人一人の本音が聞けるような工夫。
- ・ ドライブ等の行事計画において参加されにくい人への配慮。
- ・ 自治会役員の選出方法の検討。

② 南海大地震が起きた場合地域にどういう貢献が出来るか

- ・ 施設内で日常生活が出来るならトイレ・洗面場の開放とストックハウスを建てて、ティッシュペーパー・トイレトペーパー等を保管しておく。
- ・ 使用していない部屋「娯楽室」「ゲストルーム」を開放し、現在使用していない寝具の貸し出しをする。
- ・ 簡易ガス釜やはがまを使って農産物の炊き出しをする。

③ 施設改修

- ・ 娯楽室をバリアフリーにする。
- ・ 自家用発電の準備
- ・ 全室ユニットバス完備にする。（風呂の無い部屋にユニットバスを完備する。）
- ・ 緊急避難用の扉を設置する。

短期計画実施状況

施設の改修においては、洗濯物干し場を計画通り整備しました。ワゴン車整備については、日本財団への補助事業申請が採択に至らず中期へ持越しとなりました。ナースコールについては、松葉寮と同時更新とし計画を一時見直しいたします。

また、平成23年7月に特定施設入居者介護事業実施に向けて、準備を行い、実施する事ができました。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
施設改修	緊急避難用扉の設置	洗濯物干し場			自己資金 1,000
	実績	H22年度完了			自己資金 262
	居室4部屋ユニットバスの完備		115号～118号		自己資金 4,000
	娯楽室のバリアフリー			段差解消	自己資金 3,000
車両・設備更新	ワゴン車両整備	1台			自己資金 1,000
	実績	日本財団へ申請中(H23)			民間補助 2,000
	ボイラ整備			1台	自己資金 2,500 民間補助 3,000
	エアコン更新	リース対応	15台 (3,000)	15台 (3,000)	自己資金 3,000 民間補助 3,000
	実績	未(現在の物が使用出来る為)			民間補助 3,000
	ナースコール更新	(540)	(2,000)	(2,000)	自己資金 4,540
	火災報知機センサー更新	10箇所	35箇所		自己資金 1,350
	実績	4箇所(不具合箇所のみ)			

3) 多田あんしんの家

目標概要

「あんしん」「あんぜん」「あんらく」住み慣れた地域で、なじみの仲間と過ごし、なじみのスタッフが介護にあたることから、あんしんで落ち着いた時間を過ごせる場所を提供することを目的に、地域介護、地域福祉の拠点として地域人の交流の場としての機能充実を図る。

- ① 平成17年9月2日日本財団の助成を受け開所した2番目の「あんしんの家」です。施設、備品については8,200千円経費の必要性を考えています。
- ② 人材育成については、介護福祉士2人・介護支援専門員1人の養成を目指します。
- ③ 南海地震対策としては、利用者及び職員の水、食料の備蓄3日分を平成22年中に行います。
- ④ サービスに対する不満については、22年までに80%削減します。
- ⑤ 生活リハビリの強化と、家族との情報及び交流を深めます。
- ⑥ 地域内の3福祉施設と連携を取りながら、ボランティアの受け入れ(年間30人)に積極的に取り組み、介護予防に力を入れます。

短期計画実績

整備については、老朽化したワゴン車を1年早く22年に更新しましたが、利用者からの要望があったあんま機、ホットパックの整備が遅れており、中期計画で早急に整備したいと思います。人材育成については、介護福祉士資格取得に3人が合格し、職員の質向上に努める事が出来ました。震災対策については未実施で有り、中期への課題となっております。尚、「サービスに対する不満を70%削減」については、今回の、ご家族・利用者ご本人へのアンケートの結果80%削減する事ができました。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
施設の改修	浴室の拡張 床の改修		浴槽、洗い場の拡張		自己資金 3.000
設備の更新	送迎車両整備		ワゴン車		自己資金 1.500 民間補助金 2.500
	実績	ワゴン車1台			0
	健康器具整備	あんま機・ホットパック			自己資金 1.000
	実績	中期計画へ			
人材育成	介護福祉士 4人		2人	2人	
	実績	3人			
	介護支援専門員 1人		1人		
震災対策	利用者・職員水食料 3日分備蓄		35人	35人	自己資金 200
財源	自己資金	1.000	4.500	200	5.700
	補助金		2.500		2.500

4) ななほし中川

目標概要：平成 23 年度策定

ななほし中川は、学童保育を併設したあんしんの家として平成 23 年度に新設し、老人と子どもふれあいの場を大切にする事により、中川地域福祉拠点としての機能を高めたいと思います。

- ① 地震対策としての水、食料等 3 日分の備蓄
- ② 職員の専門性と心の優しさを育み、利用者サービスに努めます。
- ③ 学童保育施設として、働く保護者の子育て支援を行います。

経過の進行表

施設目標	数値計画	—	短期計画 H24～25 年度	中長期計画 H26～30 年度	財源等 (単位：千円)
施設		—	グループホーム の移転・新築		自己資金 50,000
人材育成	介護福祉士 4 人	—	2 人	2 人	
	介護支援専門員 1 人	—	1 人		
災害対策	水、食料等 3 日 分の備蓄	—	50 人	50 人	自己資金 400
財源	自己資金				50,400
	補助金				

(2) 福祉の里

1) 福祉の里デイサービスセンター

目標概要

- ① 今年度から要介護認定者(1～5)の施設としてスタートする、月平均30人程度で現在に至る。介護報酬も順調に伸びておりケアの充実を図る。
- ② 西予市からの委託事業 配食(食の自立支援事業)であるが毎年利用人数が減少している。将来的には検討の必要がある。
- ③ 職員自己評価を実施し、職員がやりがいを感じ、仕事に満足感、責任感をもてるような職場作りの必要がある。また専門性を生かしたサービスに取り組み、地域の核となるような施設を目指していく必要がある。

具体的目標

施設整備

- 給湯設備・H3年に設置17年が経過したH21年度に更新する。
- 入浴設備・H3年に設置17年が経過したH25年度までに更新する。
- 送迎車両・H12年から利用しているワゴン車をH27年に更新する。

短期計画実績

施設整備(設備)については、老朽化した給湯用ボイラーを更新いたしました。また、人材育成では、資格取得を促した結果、介護福祉士3名が合格し、職員の資質向上に努める事ができました。災害対策の水、食料等3日分の備蓄、及び生ゴミの資源化については、達成していないので今後進めていく予定です。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
設備、備品、車両等の購入及び更新	特殊浴槽		特殊浴槽更新		自己資金 9,000
	ボイラー	更新			自己資金 3,000
	実績	更新			自己資金 3,000
	送迎車両			ワゴン車購入	自己資金 3,500
サービス内容に関する事	アンケート調査の不満割合削減		不満やや不満を70%削減		
人材育成	介護福祉士9人	3人	3人	3人	
	実績	3人			
災害対策	水、食料等3日分の備蓄		被災者50人分		
	実績				
地域貢献	ボランティア受け入れ		年間40人		
	実績	50人			
地球にやさしい	生ゴミの資源化		100%		

2) 石城あんしんの家れんげ

目標概要

- ① 開所後2年が経過し、利用者も固定し経営も安定してきている。地域に根ざした施設として、ボランティアの受け入れ、地域行事に出向くなど積極的に地域との交流が図れるようにする。
- ② 職員自己評価を実施し、職員の段階に応じた研修等、人材育成を図る必要を感じた。また仕事にやりがいを感じ、満足感がもてる職場作りが必要である。

具体的目標

施設整備

- ・ワゴン車をH23年までに更新する。
- ・専門職の育成
- ・介護福祉士 21年度 2人受験
- ・介護支援専門員 21年度 2人受験
- ・生ゴミの資源化 100%継続

短期計画実績

施設整備(車輛)については、日本財団助成を受け送迎車ワゴンを購入して安全な送迎が可能となりました。人材育成では、資格取得を促した結果、介護福祉士1名、社会福祉士1名が合格し、職員の資質向上に努める事が出来ました。災害対策、地域貢献については未実施であり中期計画への課題となっております。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21~22年度	中期計画 H23~25年度	長期計画 H26~30年度	財源等 (単位：千円)
車両等購入に関する事	送迎車両				自己資金 日本財団助成
	実績	H21年度ワゴン車完了	ワゴン車購入		
顧客満足	アンケート調査の不満割合削減		不満やや不満を70%削減		
人材育成	介護福祉士2人	2人			
	実績	1人			
	介護支援専門員2人	2人			
	実績	0人			
	新規：社会福祉士				
	実績	1人			
災害対策	水、食料等3日分の備蓄		被災者20人分		
地域貢献	ボランティア受け入れ		年間20人		
地球にやさしい	生ゴミの資源化	100%継続			
	実績	100%継続			

(3) 游の里

1) 游の里関連施設

施設の目標

- ・ 在宅で暮らす高齢者、身体障害者の心身の機能回復を図り、利用者が一日でも長く居宅で生活できるよう在宅ケアの支援に努める。
- ・ 利用者の意思及び人格を尊重し、安心して楽しんで過ごせるサービスの提供を心がけ、生きることへの自信や気力を促し、支え寄り添うケアをめざす。
- ・ 地域の中核施設となるべく、地域社会との交流を促進し、利用者が地域において総合的サービスの提供を受けることができるよう努める。
- ・ 利用者が「にこやか」で「明るく健康的」に過ごすことができるよう、常にサービスの心を持ち続け「笑顔」「あいさつ」「まごころ」を利用者に届けるよう努める。
- ・ 利用者又はその家族に対して、サービスの内容及び提供方法について分かりやすく説明を行うと共に同意を得て実施し、その家族からは信頼して利用者を預けていただける施設づくりをめざす。

事業所の現状及び主な計画

游の里デイサービスセンター

- ・ H20 年度から自立・要支援の方を中心として介護予防の施設としてスタートしたが、区分変更で要介護となられた方の引き続きの利用を希望される方が多く。介護予防の特色を生かして選択が出来るよう受け入れの範囲を広げる。
- ・ 西予市からの指定管理者として協定にもとづき、大規模改修、設備の更新など市と協議をしながら進めていく。

・

あんしんの家

- ・ 地域に密着した、泊まって通える施設ではあるが、ショートステイが2床しかなく、利用者の要望を満たすことが困難となり、地区外のショートステイを利用されている。常時3人は受け入れのできる体制を確立する。
- ・ 利用者数が開設当初の1日平均約3人からH20 現在約11人と大幅に増加し施設が手狭となる。建物の賃貸契約がH21.3.31で満了するが、家主との協議の結果H21.10.31までに施設の移転を行う。

・

うつのみやさんの家

- ・ 利用者の重度化、高齢化の傾向にあるなかで、出来る事、出来ない事を見極め、出来る事を支援し身辺の自立を促進し介護度の重度化を防ぐ。
- ・ 借家施設の老朽化が激しく、屋根の葺き替え等大規模改修について家主と協議をしな

から進める。

具体的計画

施設整備

中期計画

厨房設備：H8 開設時中古で設置してあった冷凍冷蔵庫、ガスオーブンを更新する。

あんしんの家：賃貸契約期間が満了する施設の移転を H21 に行う。

長期計画

入浴設備：H8 開設時に設置し 21 年が経過した特殊浴槽、入浴リフトを H29 に更新する。

送迎車両：H8 開設時に導入し 18 年が経過したマイクロバスを H26 に、19 年が経過したワゴン車を H27 に更新する。

給湯設備：耐用年数を 5 年経過したボイラー、ろ過装置を H28 に更新する。

空調設備：耐用年数を 7 年経過した空調設備を H30 に更新する。(ユートピアと折半)

人材育成

中期計画

H23 までに正職・臨時の介護職員は 100%が介護福祉士とする。

H25 までにパートの介護職員は 50%が介護福祉士とする。

H22 までにケアマネージャーを 1 人養成する。

H21 に 1 人、H25 までに 3 人の認知症介護実践者研修修了者を養成する。

H25 までに認知症対応型サービス事業管理者研修修了者 2 人を養成する。

H25 までに障害福祉サービス管理責任者研修修了者 1 人を養成する。

地域貢献

中期計画

地域に開かれた福祉施設として、年間 150 人のボランティア受け入れを目指す。

災害対策

中期計画

H23 までに南海地震対策として、利用者、職員及び地域住民被災者 合計 100 人分の水、食糧 3 日分を備蓄する。

環境保全

中期計画

H23 までに生ゴミの資源化を図り、100%削減する。

短期計画実績

施設改修については、あんしんを家の家主からの要望もあり平成 21 年の賃貸借契約期限に合わせ、更新を行わず、同地区のさくら団地内に新築移転を行いました。また、グループホームうつのみやさんの家は中期計画で移転新築を計画しています。人材育成では、游の里に介護福祉士が 1 人増で目標の正職・臨時の介護職員全員の資格所得とケアマネージャーの資格取得は達成できませんでした。また、あんしんを家のショートステイリビング整備を計画通り実施する事が出来ました。また、認知症介護実践者研修修了者の養成は、平成 23 年度現在で 2 名養成することができました。災害対策の水、食料の 3 日間の備蓄、及び生ごみの資源化については、達成しておらず、今後進めていく予定です。

経過の進行表 游の里デイサービスセンター

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22 年度	中期計画 H23～25 年度	長期計画 H26～30 年度	財源等 (単位：千円)
施設整備	冷凍冷蔵庫		更新		自己資金 1,000
	スチームオープン		更新		自己資金 1,500
	特殊浴槽			更新	自己資金 6,000
	入浴リフト			更新	自己資金 3,500
	マイクロバス 1号			更新	自己資金 7,000
	ワゴン 5号			更新	自己資金 1,500 補助金 2,000
	ボイラー			更新	自己資金 1,500
	濾過装置			更新	自己資金 2,000
	空調設備			更新	自己資金 2,500 補助金 7,500
人材育成	介護福祉士 6人		正職・臨時職員 4人 パート 2人		
	実績	臨時 1名			
	介護支援専門員	1人			
	実績	0人			
	認知症介護実践者 研修 1人		1人		
地域貢献	障害福祉サービス 管理責任者研修 1人		1人		
	ボランティア受入 実績	162	年間 100人		
災害対策	水・食糧 3日分 備蓄		利用者・職員 被災者 70人分		
	実績	0			
環境保全	生ゴミ資源化		100%削減		
	実績	0			

経過の進行表 あんしんの家

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22 年度	中期計画 H23～25 年度	長期計画 H26～30 年度	財源等 (単位：千円)
施設整備	建物施設	建物施設移転			自己資金 2,500 補助金 7,500
	実績	H21 年度新築移 転			
人材育成	介護福祉士 2 人		正職・臨時 1 人 パート 1 人		
	認知症介護実践者 研修	1 人	1 人		
	実績	0 人			
地域貢献	ボランティア受入		年間 30 人		
	実績	55			
災害対策	水・食糧 3 日分 備蓄		利用者・職員 被災者 20 人分		
環境保全	生ゴミ資源化		100%削減		

経過の進行表 うつのみやさんの家

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22 年度	中期計画 H23～25 年度	長期計画 H26～30 年度	財源等 (単位：千円)
施設整備 平成 23 年度追加			グループホーム うつのみやさん の家移転新築		自己資金 50,000
人材育成	介護福祉士 3 人		正職臨時 1 人 パート 2 人		
	認知症介護実践者 研修		1 人		
	実績	2 名			
地域貢献	ボランティア受入		年間 20 人		
	水・食糧 3 日分 備蓄		利用者・職員 被災者 10 人分		
環境保全	生ゴミ資源化		100%削減		

(4) 皆楽園

1) 特別養護老人ホーム皆楽園、デイサービスセンター皆楽園

目標概要

平成 20 年 4 月オープンの施設であり施設整備や改修は当面必要としない。但し、特浴とリフト浴が平成 9 年購入物件を再利用したため注意深く使用する必要がある。送迎用のリフト車に老朽化の激しいものがあるため有利な補助事業等を活用して更新することとしたい。

事業推進の本旨たる介護サービスの充実については、理念と利用者アンケート等を踏まえ具体的な数値計画を以下に示し「老人に生きがい」の実現に励みたい。また、施設建設時の借入金を平成 30 年には完済し、可能な限り償却資産の更新費用も積立せていきたい。そのためには入所者の健康管理を徹底し入院日数の削減、短期入所者の稼働率アップ等で収入増を図りつつ管理運営費の削減に努めたい。

人材育成においては安定し良質なサービスを提供するに欠かせない要件であり良質な介護サービス提供を実践できるプロフェッショナル集団を育成したい。

自然を愛し環境に配慮した施設経営を推進し法人目標の数値をクリアするように努めたい。

施設設備

中期計画

リフト車更新

長期計画：H26～30 年度

特殊浴槽、リフト浴機器更新

サービスの充実

中期計画

次回実施のアンケートで今回、家族アンケートでの指摘事項を改善し「不満」「どちらか」というと不満」を合わせた数値の 70%を削減する。

人材育成

中・長期計画

H23 年度中にユニットリーダー研修終了者 4 人養成する。(現在、修了者 2 人)

H25 年度には介護支援専門員を 3 人養成する。(現在資格者 4 人)

H25 年度には施設の介護福祉士を 20 人とする。(常勤換算 70%)

短期計画実績

施設整備計画は厚生労働省の介護労働者設備整備等奨励金を活用し特殊浴槽を更新しました。同時に介護用リフトを新規購入しました。

顧客満足については実施したご家族へのアンケートの結果、総合満足度は特別養護老人ホームで「満足」78.3%「どちらかという満足」21.7%の合計で100%の評価でした。しかし、個別の評価項目において「自由時間の活動については」では、「不満」との回答はなかったものの「どちらかと言うと不満」が8.7%あり、今後改善について協議します。

専門職の養成についてはほぼ計画通り推移しておりますが、ボランティアの受け入れは計画の半数でした。

災害対策は計画作成時の目標を達成していますが、東日本大震災の被災規模を考えると計画の見直しの必要があります。施設は平屋で海岸に隣接した標高6.6mにあります。平成24年3月か4月には内閣府が東南海・南海地震とその予想津波高に関する報告をまとめると思いますので、その報告書並びに愛媛県や西予市とも避難経路や避難場所について協議し地域の福祉避難所としての機能も備えた災害に強い施設の建設計画にとりくみます。

地球にやさしい事業運営では、生ごみのリサイクルは計画通り実施できましたが、CO₂排出要因のガソリン、可燃ごみの削減は対応できておらず中期計画への課題となりました。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H21～22年度	中期計画 H23～25年度	長期計画 H26～30年度	財源等 (単位：千円)
設備の更新	リフト車更新	補助申請	不採用なら補助申請		自己資金
	実績	不採用			
	特殊浴槽更新			補助申請	自己資金
	実績	補助事業購入			民間補助
顧客満足	不満、どちらかという不満の70%削減		23年度アンケートで確認		
	実績	50～60%削減			
	入居者の平均要介護度の維持、改善に努める	3.4	3.5	3.6	
	実績	4.0			
	居室稼働率	95%	95%	95%	
	実績	95%			
	短期入所稼働率	80%	80%	80%	
	実績	91%			
デイサービス利用者1日当たり	21人	23人	25人		
実績	19人				

専門職の育成	ユニットリーダー研修終了者 4人	2人	H23年 2人		
	実績	5人(1人異動)			
	介護福祉士 13人	3人 常勤換算 50%	6人 常勤換算 70%	4人 常勤換算 80%以上	
	実績	3人			
	介護支援専門員 3人	2人	H25年 1人		
実績	1人				
地域貢献	ボランティア受入 150人/年	120人/年	150人/年	150人/年	
	実績	63人/年			
災害対策	水・食糧 3日分備蓄	入所者、利用者被災者+職員計 100人	21年実績+被災者 30人計 130	中期計画 130人分更新	
	実績	食糧 50人 飲料水 300人			
	新規：避難道一時避難施設確保		避難道、一時避難施設確保		
環境保全	生ゴミ資源化 100%	検討	達成		
	実績	90%			
	可燃ゴミ 10%削減	10%削減	継続	継続	
	実績	24%増加			

(5) 特別養護老人ホームあけはま荘 明浜デイサービスセンター

目標概要：平成 23 年度新規策定

私たちは『安心と尊厳のある生活を提供します』『個別ケアを大切にし、その人らしい生活を目指します』『笑いとしみと喜びのある生活にします』を基本理念に掲げ、利用者を第一に“おもてなし”の気持ちを持って、言葉や態度、行動などの形にして伝えます。そして、ご家族や地域の方から、やっぱりここを使ってよかったと言われるような信頼される施設づくりを目指します。

- ①昭和 51 年、明浜町（現西予市明浜町）で誕生した当施設は、平成元年の大規模増築工事を経て、平成 21 年 4 月 1 日から当法人に経営が移譲されました。現在、建物や各設備ともに老朽化が進んでおり、自己資金や補助金等の有効活用によって、整備を検討しております。又、近く予想される東南海・南海地震等の大規模災害に備えるべく、対策も推し進めていきます。
- ②職員一人一人が常にプロ意識を持って、専門的知識及び技術の習得と向上を図り、自己研鑽に努めます。
- ③デイサービスセンターにおいては、1 日平均 21 名（稼働率 70%）を目指します。

経過の進行表

施設目標	数値計画	短期計画 H24～25 年度	中長期計画 H26～30 年度	財源等 (単位：千円)
施設整備	冷凍冷蔵庫	更新		自己資金 500
	空調設備		更新	自己資金 40,000 又はリース
	ボイラー 2 台	更新(旧館)	更新(新館)	自己資金 5,000 補助金 5,000
	特殊浴槽	更新		自己資金 1,500 補助金 3,500
	衣類乾燥機 2 台	更新 1 台	更新 1 台	自己資金 2,000
	車両整備		リフト普通・軽 各 1 台(5,000)	自己資金 3,000 補助金 2,000 又はリース
	居室テレビ視聴工事	実施		自己資金 2,000
	利用者コールシステム	更新		自己資金 5,000 又はリース
	防災備品及び避難場所の整備	備品購入及び避難体制・場所の検討	避難場所の整備	

	給食業務の外部委託	委託の検討	実施	
人材育成	社会福祉士 2人	1人	1人	
	介護福祉士 18人	8人	10人	
	介護支援専門員 5人	3人	2人	
	認知症介護実践者研修 6人	3人	3人	
	職員研修の充実	職員接遇研修 ユニットリーダー研 修 介護力向上研修 パート職員研修	職員接遇研修 ユニットリーダー研修 介護力向上研修 パート職員研修	
地域貢献	ボランティア受入	年間 100人	年間 100人	
	介護教室の開催	年2回	年2回	
災害対策	水・食糧3日分 備蓄	利用者・職員 地域150人分の更 新	利用者・職員 地域150人分の更 新	
環境保全	生ゴミ資源化	100%削減	100%削減	
	節水	10%使用量 削減		

2) ケアハウスはまゆう

目標概要：平成23年度新規策定

ケアハウスは、軽費老人ホームの一種で、入所の際には、入浴や排泄、洗濯など、日常生活を行うことが出来るが身体機能が低下しつつあり、自立した生活（自炊が出来ない程度）が心配な高齢者に利用してもらう為の施設です。

当施設の良い所は、低額（所得に応じた）負担で、食事、入浴サービスの提供があり、規則正しいリズムで生活できることです。自由な時間が十分に持て、困ったときには、相談できる職員が配置されています。そして施設内で介護保険の居宅サービスが受けられることです。この利点を更に活かすために、各職員がきめ細やかに利用者の皆さんの相談に乗り、心豊かに生活していただきますよう努めてまいります。

①当施設は平成8年4月に明浜町（現西予市明浜町）が開設、運営し、平成21年4月1日から当法人の経営に移管されました。現在、建物や各設備ともに老朽化が進んでおり、自己資金及び補助金等の有効活用によって、整備を検討しております。

又、近く予想される東南海・南海地震等の大規模災害に備えるべく、災害対策も推し進めていきます。

②特定施設入居者生活介護事業について検討し、導入を進めてまいります。

③皆様お一人お一人が生活しやすいように、利用者懇談会をはじめ、日常の様々な場面を通じて、お話を耳を傾け、さりげなく心のこもった支援を心がけます。

経過の進行表：平成 23 年度新規策定

施設目標	数値計画	短期計画 H24～25 年度	中長期計画 H26～30 年度	財源等 (単位：千 円)
施設整備	冷凍冷蔵庫	更新		自己資金 500
	空調設備		更新	自己資金 10,000
	ボイラー及びろ過機		更新	自己資金 5,000
	車両整備		軽自動車更新	自己資金 3,000 補助金 2,000 又はリース
	2階寮母室及び倉庫の 整備	整備		自己資金 1,000
経営満足度の向 上	特定施設入居者生活介 護事業に向けて	検討	実施	
災害対策	水・食糧 3 日分 備蓄	あけはま荘分に 含まれる	あけはま荘分に 含まれる	
環境保全	生ゴミ資源化	100%削減	100%削減	
	節水	10%使用量 削減		